

第10期第1回 苫小牧市地域包括支援センター運営協議会 結果
(令和5年度認知症初期集中支援チーム検討委員会)

日時：令和5年7月5日（水）18:30～19:40

場所：苫小牧市役所第2庁舎2階北会議室

1 開 会

2 部長挨拶

福祉部長 白川 幸子

3 委員自己紹介

4 事務局紹介

5 会長及び副会長の選出

事務局一任にて

会 長 苫小牧市医師会推薦 堀田 哲也氏

副会長 苫小牧市社会福祉施設連絡協議会推薦 木津 泉氏 と決定

6 議 事

地域包括支援センターの運営について

【資料】

- (1) 令和4年度地域包括支援センター事業報告及び令和5年度事業計画
- (2) 令和4年度地域包括支援センター収支決算報告及び令和5年度予算計画
- (3) 令和4年度認知症初期集中支援チーム活動報告及び令和5年度計画
- (4) 令和4年度認知症地域支援推進員活動報告及び令和5年度計画

7 その他

地域包括支援センター事業評価について、結果が出ましたら書面にて報告予定。

第10期第1回 苫小牧市地域包括支援センター運営協議会議事録

日程：令和5年7月5日（水）

時間：18時30分～19時40分

場所：苫小牧市役所第2庁舎

2階北会議室

議事 地域包括支援センターの運営について

(1) 令和4年度地域包括支援センター事業報告及び令和5年度事業計画

(事務局説明：東梅主査)

P2 令和4年度地域包括支援センター事業報告及び令和5年度事業計画を説明。

【質疑応答】

[伊藤(康)委員]

7包括のうち、事業報告、事業計画の中での重点目標、重点課題に、3包括が職員の業務過多、または1か所、職員のメンタルヘルスが保たれないことを重点課題として挙げていると思いますが、今までも包括の業務過多はずっと言われてきたと思います。3ページにあるしらかば包括は、職員の休職者が多いと書かれてあります。やはり業務過多が大いにあると考えられるのではないかと思います。やはり、この協議会の中で、包括の円滑な運営を考えることが役割としてあるので、このことについては見逃すことはできない問題なのではないかと思います。

予算のことを考えずに申しますと、職員の業務過多があれば、職員定数を増やすことを本格的に考えなければならないのではないかと思います。市として何か今後の方向性など考えていることがあればお聞きしたいと思います。

[吉田委員]

私も全く同じことを考えていました。地域包括支援センターが行っていることは非常に大変なことだと感じています。私も町内会で地域包括支援センターの職員が、毎週お年寄りに様々な体操を行っていることを知っています。ですが、一生懸命やっている割にはどのようなことを行っているか不明なことが多いです。是非、そのようなことも含めてきちんとして欲しいと思います。一生懸命取り組んでいるものを、評価する人がいなくなったら、働かなくなります。現在は保育園や幼稚園にも人がいなくて大変困っている。働き方改革をすることが必要だと感じています。私も人材の問題については、行政財政改革の中でも委員になってやってきました。人の問題というのはとても大事なことだと考えます。特に人と人と接触している仕事というのは大変な仕事だと私はいつも思って感心しています。私は色々な記事を読んだり、あるいは人から聞いて思っているので、今、社会福祉協議会の伊藤さんがおっしゃったように、人の問題をどうしていくのかということを知りたいです。

[佐藤課長]

まさに、この運営協議会でも、人材の問題が中心になるかと考えておりました。

数年来、介護人材が不足しているという状況の中で、本当に頑張っているというものは、皆さま重々承知しているところだと思います。

しらかば地域包括支援センターが現在欠員という形になっておりまして、補充されていない状況です。法人にも何度も足を運びながら、状況を確認し職員の配置について話をしておりましたが難しい状況です。このような状況の中、総合相談の件数は増えている状況です。

先ほどの報告でもお伝えしていましたように、総合相談で寄せられる課題が輻輳している中で、市も介護福祉課だけでなく、総合福祉課や、また、社会福祉協議会等、様々な関係者がサポートしながら、高齢者に対する課題に何とか皆で力を合わせて解決にしていこうとしています。

今回、追加資料を皆様にお配りいたしました、1から7の取組を挙げさせていただきました。地域包括支援センターの業務が非常に大変になってきているという中で、やはり職員一人一人のパフォーマンスをどうやって上げていくか、効率的に業務を行っていくために、研修会や検討会を行っています。何より大事なものは、私どもは業務委託という形で地域包括支援センターを運営している中で、やはり課題や方向性をしっかりと共有できるような仕組みをもっと具体的にやっっていかなければならないと考えております。そのために定例的な会議を持つことも必要と考えており、包括職員とも大変ながらも良い関係性を築かせていただいております、忌憚なく困ったときに相談していただき、一緒に対応を考えていこうといった取組をしているところです。地域包括支援センターと情報共有する中で、業務をどのように効率的に実施していくか、一つ一つの事例に対して、どういう解決方法があるかということについて、さらに包括間の情報連携もしながら、機能強化を図っています。

肝心な人材については、一定程度圏域の人口規模で配置の基準がありそれに応じている状況です。しかし、問題が輻輳化していく状況の中で、人材をどう配置していくか、あるいは業務の仕方を考えていかなければならないかと考えております。

[森田委員]

先ほど伊藤さんがおっしゃったように、かなり地域包括支援センター（以下：包括）の業務はとても大変で、年々大変になっています。総合相談や権利擁護・虐待関係の複雑な課題が年々多くなってきていると思います。その中で、やらなくてはいけないこと、進めていかなければならないことはあると思います。例えば介護予防に関することもマンパワーも不足し、ぎりぎりの状態でやっていて、どこか一人でも欠けたら、運営できないという状況になりかねないのかと思います。

また、私は昔小牧市の事業でシルバーリハビリ体操指導士養成講座に携わっていますが、いわゆる地域住民、住民主体による自助・互助ということをどうアピールをするかが重要だと考えています。市や包括だけではなくて、地域住民が主体となって何かやっっていかなないと、包括がやらなければならないことがあまりにも多くなっていく一方だと思います。住民が主体的に活動することについて、市としてもどんどんアピールをしていく。若い世代も上の世代も含めて、地域住

民に自助・互助で介護予防を進めていく意識をアピールしていくことが必要だと思います。そうしないと市も包括もたない。かつかつになる前に、今のうちに何か手を打っておかないと、先は厳しいのかなという気がします。要は住民に対しての周知・広報活動も、これからはもう少し考えていただければと思います。

[佐藤課長]

ありがとうございます。大きく分けますと、二つほどご意見をいただいたかと思えます。

権利擁護というキーワードが出てきましたが、やはり問題が輻輳していく中で、総合相談で寄せられている課題として、権利擁護に関する業務は、やはり包括の中でも非常に難しい課題だと考えています。

今年度、権利擁護に関する研修を、市と社会福祉協議会や成年後見支援センターが中心となり、権利擁護とはどういうことなのか、また事例を通した研修会を開催しました。それは包括だけではなく、ケアマネジャー等、多くの方に参加をいただき権利擁護について考えました。研修会は、初回でも120名程の出席があり、やはり現場で働かれている方にとっては、非常に大きな問題として捉えていると感じられました。

2点目、シルバーリハビリ体操指導士養成講座は、森田委員にも御協力いただきながら、令和2年度から事業を進めています。やはり地域包括支援センターもそうですし、専門職の介護に携わる専門職が不足している中で、やはり市民の皆さんの中にも介護予防という意識を強く持っていただく啓発や広報をしっかりと行っていかなければならないと考えております。

また、先の6月議会でも話題に上がったのですが、やはり介護予防をしっかりと根づかせていかなければならない、そのために介護予防ケアマネジメントを関係者が適切に行っていくためのマニュアル化したものを示す必要があると考えます。それを示すことにより、ケアマネジャーのスキルアップにつながることで、また各事業所で勉強していただくために使えるものとして、準備していきたいと考えているところです。

[東梅主査]

森田委員の御意見ありがとうございます。ひとつ加えることとしてお伝えします。

私たち現場でも介護予防について、高齢化が進む中で、自分でできることは自分ですということを今から意識してもらいたいという考えがあり、実はリーフレットなども作っており、今回6月に開催しました介護予防講演会の時に、自分のことは自分でやる、高齢者になっても支えられる側ではなく、支える側になれる意識を持つこと、地域で役割を持つことについてリーフレットを配付し、健康教育をしました。これから、このような周知を、どんどん地域住民の皆さんに向けて実施していき、お互いが高齢になっても助け合う地域ができるように取り組んでいけると考えております。

[森田委員]

ありがとうございます。

[伊藤（康）委員]

今取り組んでいることを、包括だけでやるのではなくて、森田さんがおっしゃった地域や、ま

た、企業で行うこと、例えば、市の職員を何人か派遣する、社協の生活支援コーディネーターを包括に配置するなど、抜本的に色々なことを見直していかないとならないと考えます。

多分、この問題というのは、人を増やしたくても人がいないし、当然お金もかかることなので、何かやり方を変えていくということを相談するということが重要かと思っています。

[堀田会長]

ありがとうございます。

人材の問題は、どこの組織も喫緊にして永遠の課題のような気がいたしています。市もそれは認識していると思います。

[佐藤課長]

企業というお話が出たので、紹介させていただきますと、社協で行っているだけボラという事業がありまして、公住の高層階に住んでる方の灯油の配達が始まりました。これは東高校の野球部、ホッケー部の学生が高齢者に灯油の配達を行っているものです。住吉の公住から始まり、沼ノ端・勇払の公住にも広がりを見せてまして、そこは企業の工場勤務をされた方が、仕事帰りに高齢者宅に立ち寄り、ポリタンクに入った灯油を持ってお宅を訪問しています。

これは社協が色々調べた結果、支援者を掘り起こして、企業も地域に入ってお手伝いをするのが叶ったものです。企業の方もご高齢の方と触れ合ってお手伝いをするということに対して、非常に意義を感じていただいております、こんな簡単なことで地域に貢献できることがあるんだと、若い世代の方がおっしゃっていました。企業にお勤めの若い世代の方の中にも、地域貢献の意識があることを感じています。そのような若い世代の方々に対して、参加してもらえるような仕掛けも重要になってくると思っています。

苫小牧にもそのような熱い思いを持っている人が結構いるのだという、そのような気持ちも大切にしながら、施策展開をできないかと考えています。

(2) 令和4年度地域包括支援センター収支決算報告及び令和5年度予算計画

(事務局説明：長谷川係長)

各地域包括支援センターごとに、委託費会計、介護保険会計を分けたもの、委託費会計と介護保険会計の合計を記載しております。

委託費会計につきましては、地域包括支援センターの管理費や介護予防教室の実施、地域ケア会議の開催などの各種事業に係る会計となっております。

介護保険会計は、介護予防支援、介護予防ケアマネジメント、いわゆるケアプラン作成に係る会計となっております。

決算及び予算については、各地域包括支援センターごとに、また、年度によってやや差異が見られることがありますが、地域包括支援センターが安定的に運営できるように、今後、引き続き受託の法人や地域包括支援センターと協議を行わせていただくよう考えております。

【質疑応答】

〔及川委員〕

令和4年度収支決算、5年度予算計画も、マイナスが出るというのは、受託をされている法人の負担になっていくのかと思うのですが、先ほどの前段のお話の中で、これだけの業務量がある中で、採算が取れないとなると、法人側としてはこのような状況で良いのかという話になってしまうのではないのでしょうか。ただ、ここは、受託されている法人がかなり理解をされて、この必要性に重きを置いてくれているということだとは思いますが。ただ、ずっと続けて行けるのかどうかというところが、非常に人材の部分と併せ考えると、大変だから人材を増やすといっても簡単に人が見つからないこともあると思います。また、その手だてをする予算もなかなか難しいという現状がありながら、では、一人一人のスキルを上げるということを行うと、先ほど話に出ていたしらかば包括のように倒れてしまうのかと、非常に難しいことなのかと感じています。

実際、法人側との懇談会をされた中で、運営法人側から金銭面について、実際に話は出ていることなのでしょうか。

〔佐藤課長〕

法人とは定期的にお話をさせていただく機会があります。

同様に人材確保が厳しいという話は、やはりどこの法人でもされている現状もあり、費用的にも厳しいという声はずっとお聞きします。どうしても事業として立ち行かないところまでのお話はないですが、人材不足で厳しいという中で、既に様々なコストパフォーマンスを上げる取組をしていますが、業務内容の精査もしていかなければ、安定的な運営にはならないと考えます。特に、費用が増してきているのかということについても、実際にそれが本当に要るのかということも踏まえて、もう少しきめ細やかに事業面についてお話をしていく必要があると思っています。

〔及川委員〕

ありがとうございます。

(3) 令和4年度認知症初期集中支援チーム活動報告及び令和5年度計画

〔事業説明：草賀主査〕

認知症初期集中支援チームは、認知症が疑われる人や認知症のご本人やご家族の相談に応じ、できるだけ早く医療や介護につなげることを目的に支援するものです。認知症サポート医と医療職系・介護職系の専門職がチームを組み、支援します。

苫小牧市は、この支援チームを7つの地域包括支援センターに委託し、実施しています。チーム員は対象者の状態を把握し、認知症に関する情報の提供や認知症に関する正しい知識を提供したり、ご本人やご家族の相談に応じます。支援の方法について、会議にて決定しています。

資料P 22～24 令和4年度初期集中支援チーム活動報告及び令和5年度計画を説明。

【質疑応答】

[吉田委員]

チーム員の体制について、1ページの令和4年度苫小牧地域包括支援センターの運営状況の総括表で職員体制は43名とありますが、初期集中支援チーム設置状況では41名となっています。同じ人なのか、別の組織としているのかお聞きします。

[草賀主査]

地域支援包括支援センターの職員が担っており、別な組織ではありません。人数に差があるのは、地域包括支援センターの職員の中で、このチーム員に係る研修を受けた者がチーム員として活動しているためです。

[吉田委員]

この質問をしましたのは、先日、うちのマンションで認知症の人がいて、民生委員に連絡したり、地域支援包括センターへ行ったら、次の日包括職員が来てくれました。相談に乗ってくれて札幌から来た親族が安心していました。感謝をしていました。地域包括支援センターの職員は、認知症の人の対応する人が同じなのか別にいるのか聞きたかったのです。同じ人が対応していることは大変なことですね。

[堀田会長]

そうですね。地域包括支援センターの職員一人一人が、認知症の支援やそれ以外の相談について、様々な対応を行っているということです。

[吉田委員]

大変な作業をしているのですね。ですから、なおのこと欠員になると他の人に負担がかかったり、相談ができなかったり、報道でも色々な問題を耳にします。そのようなことにならないよう、みんなが安心して働けるような環境をぜひ作って欲しいと思います。

(4) 令和4年度認知症地域支援推進員活動報告及び令和5年度計画

(事業説明：草賀主査)

資料P25 令和4年度認知症地域支援推進員活動報告及び令和5年度計画を説明

【質疑応答】

意見なし

その他

(事務局説明：草賀主査)

地域包括支援センターの事業評価について、第9期第4回運営協議会で、苫小牧市独自の評価方法を国の評価と合わせることについて承知いただいていたいました。国の調査が遅れておりまして、これから集約予定です。事業評価結果が出ましたら、書面でご報告させていただきますので、よろしく願いいたします。

令和4年度 苫小牧市地域包括支援センター事業運営状況 総括表

		西包括			しらかば包括			山手包括			南包括			中央包括			明野包括			東包括			令和4年度 総計	令和3年度 総計	前年比
委託法人		社会福祉法人 緑陽会			社会福祉法人 苫小牧慈光会			社会福祉法人 山手の里			社会福祉法人 ふれんど			医療法人 王子総合病院			社会医療法人 平成醫塾			社会福祉法人 緑星の里					
開設年月日		平成18年4月1日			平成21年4月1日			平成21年4月1日			平成21年3月19日			平成18年4月1日			平成21年4月1日			平成18年4月1日					
		令和4年度	令和3年度	前年度比	令和4年度	令和3年度	前年度比	令和4年度	令和3年度	前年度比	令和4年度	令和3年度	前年度比	令和4年度	令和3年度	前年度比	令和4年度	令和3年度	前年度比	令和4年度	令和3年度	前年度比	令和4年度	令和3年度	前年度比
日常生活圏域人口(各年度10月1日現在)		24,993	24,938	55	20,056	20,250	△ 194	21,648	21,889	△ 241	16,790	16,975	△ 185	19,855	20,262	△ 407	27,401	27,770	△ 369	37,846	37,670	176	168,589	169,754	△ 1,165
高齢者人口		8,876	8,813	63	7,710	7,627	83	8,017	8,097	△ 80	6,230	6,222	8	5,903	5,963	△ 60	8,215	8,096	119	5,782	5,667	115	50,733	50,485	248
高齢化率		35.5%	35.3%	0.2%	38.4%	37.7%	0.7%	37.0%	37.0%	0.0%	37.1%	36.7%	0.4%	29.7%	29.4%	0.3%	30.0%	29.2%	0.8%	15.3%	15.0%	0.3%	30.1%	29.7%	0.4%
職員体制	職員総数(人)	6	6	0	5	5	0	7	7	0	7	7	0	5	6	△ 1	8	7	1	5	6	△ 1	43	44	△ 1
	社会福祉士	2	2	0	2	2	0	2	3	△ 1	2	1	1	1	1	0	4	3	1	2	2	0	15	14	1
	主任介護支援専門員	1	1	0	1	1	0	1	1	0	2	2	0	1	1	0	2	1	1	1	2	△ 1	9	9	0
	保健師または看護師	2	2	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	3	3	0	2	2	0	1	1	0	11	11	0
	その他	1	1	0	1	1	0	3	2	1	2	3	△ 1	0	1	△ 1	0	1	△ 1	1	1	0	8	10	△ 2
	認知症地域支援推進員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	△ 1	2	3	△ 1
総合相談支援・権利擁護	総合相談(件)	2,601	2,286	315	2,160	1,788	372	3,603	3,715	△ 112	2,955	3,228	△ 273	4,544	3,732	812	2,462	2,787	△ 325	1,437	2,168	△ 731	19,762	19,704	58
	権利擁護相談(件)	81	75	6	17	40	△ 23	106	214	△ 108	102	387	△ 285	857	390	467	181	345	△ 164	36	118	△ 82	1,380	1,569	△ 189
包括的・継続的ケアマネジメント支援	対応相談(件)	37	47	△ 10	8	26	△ 18	44	20	24	27	62	△ 35	229	158	71	50	180	△ 130	15	16	△ 1	410	509	△ 99
	地域ケア会議(回)	3	1	2	1	1	0	3	3	0	11	8	3	13	9	4	5	7	△ 2	12	7	5	48	36	12
介護予防ケアマネジメント・介護予防支援	一般介護予防対象者把握事業	18	10	8	18	9	9	16	17	△ 1	19	15	4	19	19	0	16	12	4	15	8	7	121	90	31
	総合事業・予防給付	2,095	2,148	△ 53	688	1,221	△ 533	1,880	1,721	159	1,492	2,095	△ 603	3,246	3,099	147	2,738	2,884	△ 146	1,621	1,892	△ 271	13,760	15,060	△ 1,300
認知症施策の推進	サポーター養成講座数	5	3	2	3	3	0	2	4	△ 2	5	5	0	1	0	1	3	3	0	6	5	1	25	23	2
一般介護予防教室	一般介護予防教室数	3	3	0	3	3	0	4	4	0	4	4	0	2	2	0	2	2	0	3	3	0	21	21	0
	一般介護予防教室実施回数	138	86	52	130	82	48	180	109	71	165	99	66	97	58	39	48	31	17	102	58	44	860	523	337
	参加延べ人数	3,315	1,991	1,324	2,182	799	1,383	2,169	1,322	847	1,656	817	839	1,088	778	310	971	617	354	1,700	829	871	13,081	7,153	5,928

令和5年度地域包括支援センター運営方針 重点項目

- (1) 個別ケースの課題分析等を行うことによる地域課題の把握と地域におけるネットワークの強化、様々な社会資源との連携
- (2) シルバーリハビリ体操指導士などを活用した地域における住民主体の介護予防の促進
- (3) 各地域包括支援センター間や関係機関等との連携強化

1 苫小牧市地域包括支援センターの現状

相談件数の増と複合的問題による対応の長期化

- ・高齢化率が上昇し、地域包括支援センターの認知も広がっていることから、総合相談件数が年々増加傾向にある。
- ・認知症が重度化しているケースや8050問題のケース等、複合的多様な相談の増加により、解決が困難で対応に時間がかかるケースが増加している。
- ・対応困難なケースは市職員も介入し、包括職員と共に対応するケースが増加している。

人材不足による包括職員の負担増

- ・地域包括支援センター職員が欠員状態で運営し、人材不足のなか、相談件数の増、相談内容の複雑化で対応に追われている状況である。
- ・人材不足の包括は、地域ケア会議や認知症施策等に取り組めていない状況であり、市が運営体制の確認や相談に応じたり、地域ケア会議開催に向けてサポートを行う等対応した。

2 苫小牧市地域包括支援センター運営において市が重点をおくこと

多様な主体とのつながり、連携の強化

- ・相談件数の増・複合的な問題が増加するなか、地域包括支援センターだけで対応していくには限界があるため、地域住民やボランティア、民間企業等の多様な主体と連携を図っていく。
- ・また、相談内容が複雑化していく中で、高齢者のみならず、障がい者、子育て世代等を一体的に支援する重層的な支援体制整備に向けて、関係機関との更なる連携強化を図っていくことが必要と考える。

介護予防への意識の向上

- ・高齢者が自ら介護予防の意識を高めていくことが重要であり、健康的にできるだけ長く自立した生活を送っていく高齢者が増加していくことが望まれる。
- ・現在、市や地域包括支援センターで一般介護予防事業として介護予防教室、シルバーリハビリ体操指導士養成講座等を行い、介護予防・自立を支援する働きかけを行っているが、さらに普及・啓発を行っていくことが必要。
- ・各包括支援センターも介護予防や関係機関との連携を図る意識を持ち、業務を遂行していく計画を作成しており、各包括間でも情報を共有しながら取り進めていく。

介護予防に向けた地域の担い手の発掘

- ・住民が主体的に生活援助等を提供していく、介護予防・日常生活支援総合事業（以下、総合事業）を進めていくことが必要であり、本市でも訪問型サービスA、通所型サービスA、訪問型サービスBを実施しているが、十分に活用されていないサービスがある。
- ・住民に主体性の意識は浸透しておらず、自助・互助の意識を持ち、介護予防に取り組む意識づけが必要である。地域の自主性や主体性に基づいた、住民主体のサービスを構築していくよう、第9期介護保険事業計画でも重要課題として取り組んでいく考えである。地域包括ケアシステムの深化のためにも、地域の特性に応じた訪問型サービスBやD、通所型サービスBの等の総合事業実施につなげていきたい。

地域包括支援センターの機能向上

- ・相談内容が複合的多様化している状況にあるなか、地域包括支援センター職員の技術の向上の一助とするために、研修会を実施している。
- ・地域包括支援センター・生活支援コーディネーターと介護福祉課で定期的に会議を設定し、課題の検討や情報共有を行う機会を設定している。

3 苫小牧市地域包括支援センターの課題と目標、特徴的な取り組み

【西地域包括支援センター】

- ・地区診断を行い、計画的に地域へのアプローチを行っている。
- ・地域とのつながりを持ち相談対応を行っているが、地域ケア会議や、認知症初期集中支援チーム等、事業を活用しての支援は十分にできていないことから、令和5年度は事業を活用した支援を目標にあげている。
- ・介護予防・地域づくりを進めていくために、シルバーリハビリ体操指導士や認知症見守りたいとの関係性を築き、地域づくりに力を入れていくことを計画している。

【しらかば地域包括支援センター】

- ・職員の休職者が多く、運営体制が整っていない状況で進めてきた。総合相談の対応が精一杯で、地域づくりや介護予防、認知症施策等に取り組めていない状況である。
- ・地区民協や町内会の集会に参加し、顔なじみの関係から、地域づくりが発展していくところから始める。（令和5年度は日新町を中心に実施）
- ・生活支援コーディネーターと連携し、地域課題について検討の機会を持つ。また、認知症施策については認知症地域支援推進員と課題を共有し、地域へ向けてできることに取り組んでいく。

【山手地域包括支援センター】

- ・地域住民に介護予防の意識が低いことを課題と捉え、住民が介護予防を自発的に取り組める仕組みづくりを計画している。
- ・シルバーリハビリサロンを通じて、自助・互助による介護予防に取り組んでいくよう働きかけ

る。

- ・地域ケア会議で認知症見守りたいの参加の機会を設け、認知症の人や家族が、地域で安心して生活するために、地域とのつながりを深められる働きかけを行っていく。

【南地域包括支援センター】

- ・地域の特性として、身寄りがなかったり、生活困窮状態である等、相談内容が複合的な課題が重なって解決困難なケースが多く、対応に追われるが、地域ケア会議を活用したり、地域住民や民間等関係機関との連携を図りながら対応できている。
- ・認知症フレンドリーファームの取組みや認知症カフェを支援する等、認知症の人や家族への関りを積極的に行っている。
- ・地域ケア会議で見出された課題を、生活支援コーディネーターと検討し、資源開発を目指していく。

【中央地域包括支援センター】

- ・複合的な課題を持つ相談者が多く、その対応に追われているが、地域ケア会議やカンファレンスで地域や関係機関等との連携を図りながらケース支援を行い、その成果が徐々に地域にも浸透し協働できる体制が整ってきている。
- ・重度化する前に対応できるよう、介護予防の必要性の理解が広がることが重要であり、地域への啓発を、地域ケア会議(圏域)から取り組む。
- ・シルバーリハビリ体操指導士等の活用も含め、生活支援コーディネーターと協議しながら、地域活動につながるよう資源開発に努める。

【明野地域包括支援センター】

- ・地域ケア会議であげられた市営住宅高層階の灯油の運搬の課題について、生活支援コーディネーターと協議し、だけボラを活用した灯油の運搬事業を開始することができた。
- ・地域づくり促進の取組みとして、シルバーリハビリ体操に力を入れ、介護予防の取組みと地域との関係性が築けている。令和5年度もシルバーリハビリ体操の活動場所をさらに増やす予定。
- ・認知症の普及・啓発を子育て世代へ働きかけることを目的に、認定こども園で開催する等、多世代に理解が広がる取組みを行っていく。

【東地域包括支援センター】

- ・高齢化率は低いですが、認知症の相談や複合的な課題がある困難ケースが増えている。
- ・定期的に民生委員やその他関係機関との情報交換を行う機会を設けながらネットワークを築き、地域づくりにも積極的に取り組んでいる。東開文化交流サロンが開設され、若い世代を巻き込んだ地域づくりに取り組む予定。
- ・シルバーリハビリ体操教室が定期的に開催されており、住民主体の教室として地域に定着するよう働きかける。

苫小牧市地域包括支援センター 令和4年度事業報告及び令和5年度事業計画

西地域包括支援センター

項目	実施報告	課題整理	事業計画(具体的に取り組むこと)		
<p>【重点課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議、認知症初期集中支援チームの開催回数が少なく、地域診断、地域ネットワーク作り等に支障をきたしている。 ・シルバーリハビリ指導士や見守りたいとの関係作りを行う中で、介護予防・地域作りを進めていく中で欠かせない存在である。 ・ボランティアニーズがあり、活用できないか検討していく必要がある。 ・包括職員のスーパービジョン力を向上させ、ケアマネ支援にも活かしていく必要がある。 	<p>【重点目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議、認知症初期集中支援チームの開催回数を増加させる ・シルバーリハビリ指導士や見守りたいの活動の場づくりを支援する。 ・ボランティアを養成し活動を支援する。 ・包括職員のスーパービジョン力の向上を図る。 	<p>業務推進への運営体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3職種6名(パート含む)が安定勤務し、専門性を活かし、センター内でのミーティング等を活用し支援ケースの検討や相談、業務内容などの話し合い運営を行ってきた。更に、市からの統計資料や今までの地域との関係等から地域診断や自己評価等に基づいて、各専門職からの課題や来年度の方向性等を共通認識(可視化)し取り組んだ。 ・地域の高齢者等の個人情報管理の上で、守秘義務を負うものとしての自覚を持ち、法律や条令等を遵守し、適切な手続きに沿った業務を実施。今後もPCのセキュリティ対策、USBメモリー等の管理徹底(施錠管理)を継続し個人情報漏洩を確実に防止していた。 ・苦情が発生しないよう丁寧な対応に心がけるよう研鑽を積むとともに、もし発生した場合には適切な対応ができるよう体制を整えている。 	<p>【課題整理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミーティング等で決めたチームに関しては2～3人で稼働することができたが、自ら声をかけ意識しながらチームでアプローチすることができなかった。 ・課題や来年度の方向性等を共通認識(可視化)し取り組んだが、進展状況の確認や見直し時期が遅く、すべての事項を実施することができなかった。 ・今後も苦情が発生しないよう真摯に対応するよう心掛けるとともに、他で発生した事例等も参考にすることが必要である。 ・BCPの策定が必要である。 	<p>【事業計画(具体的に取り組むこと)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームアプローチの充実のため、自分から声をかけて意識的にチームを作っていく。 ・9月のミーティング時に進展状況の確認や見直しを行っていく。 ・国保連発行の苦情相談ハンドブック等を参考にミーティング等で研鑽していく。 ・BCPの策定を早期に行い、必要品等も揃える。
<p>共通の支援基盤構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・朝や随時カンファレンスを実施し、高齢者等や地域実情の情報を共有化するとともに、研修会参加(Zoom)等で資質向上を行い、3職種の専門性や役割を踏まえたチームアプローチの元、柔軟で迅速な支援に心がけてきた。 ・コロナ禍の中でもできる町内会やサロンでの介護予防啓発や認知症サポーター養成講座の開催、グループホーム等の運営推進会議への参加を通じてネットワーク作りの強化に努めてきた。 ・町内会等の把握と関係を強化するため、チラシ等の配布依頼をしながら対話を深めた。 ・民生委員からの相談や来所による相談件数がさらに増えてきている。 	<p>【強み】(特に評価の高い点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域診断を行い、計画的に地域へのアプローチを行うことができています。 ・残り番を作り、来所相談にいつでも対応できるようにしている。 ・介護予防教室参加者が多く、情報収集・発信、ネットワークづくりにも生かされている。 ・民生委員とのつながりも良く、相談も多い。 <p>【弱み】(改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域診断から、高齢者夫婦世帯(隠れ単身者、介護や療養世帯)へのアプローチの必要性を感じており、関わる地域を増やしていく必要がある。 ・市営道営住宅の実態を把握し対応していく必要性を感じている。 ・サロンや老人クラブのコロナ明けの実態を把握する必要はある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者夫婦世帯を実態把握調査を通じて把握し、対応策を検討していく。 ・地域のアプローチ地区を宮前、のぞみ、錦西町内会に拡大していく。 ・市・道営住宅の問題を他機関とも連携し圏域会議等で抽出し、対策を練り実行に移していく。 ・保健師中心にサロン・老人クラブの把握と関りを強化する。 ・研修会には積極的に参加させ、研修報告等で全体のスキルアップを図る。 		
<p>総合的権利擁護支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相談業務を行うにあたり、医療・介護・保健・福祉・権利擁護等の関連する様々な制度や施策の活用と、地域事情を踏まえて迅速で的確な支援が行えるよう心がけてきた。 ・ワンストップサービスの拠点施設として、きめの細かい相談対応と迅速な対応とつなぎ、フォローを行なえるよう心がけてきた。 ・高齢者虐待や成年後見制度の普及・啓発に努め、虐待に関する研修を通じて窓口機能の充実と資質の向上に努めた。 ・権利擁護支援センターと連携し成年後見等権利擁護が急務な対象者に対して迅速な対応を行うよう心掛けた。 ・地域高齢者の消費者被害、特殊詐欺・振り込み詐欺の防止を行うために、状況に応じて消費者センターや警察と連携を図り、又、介護予防教室などを通じて情報発信(チラシ)を行ってきた。 	<p>【強み】(特に評価の高い点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域講演会を実施し次につなげることができた。 ・新人社会福祉士に経験の場を提供できた。 <p>【弱み】(改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談対応後「連絡待ち」としてしまふことが多く、取りこぼすこともある。 ・権利擁護、虐待対応件数が少なく、スキルアップを行う機会が少ない。 ・ボランティアニーズがあることが地域診断からわかっているため、高齢者とマッチングさせていく必要を感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談対応後の「連絡待ち」を極力少なくし、日にちを決めてこちらから連絡するようにする。 ・「高齢者の運転」に関する講演会を継続しながら、地域診断から「癌」に関する地域講演会を実施する。 ・TMネットワークへの参加等研鑽の機会を増やしていく。 ・消費者被害防止のため「見守り情報」等を活用し、注意喚起を行う。 ・内部勉強会(ACP等)を適時開催し、包括職員としてのスキルを上げていく。 ・自分の担当ケースを通じて、ボランティアに通じるニーズを拾い上げる。 ・ボランティアの核となる方を養成し、社協等とも連携し、訪問型B等の事業に繋げていく。 		
<p>ケア包括的・継続的支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネとともにケース対応を実施。対応困難事例や家族問題等の相談が徐々に増えてきている。 ・ケアマネの活動支援として、しらかば地域包括支援センターと協働し、Zoomの活用、集合研修を再スタートし軌道に乗せることができた。 ・他圏域の勉強会にも学び、自分たちの圏域勉強会に活用することができた。 ・地域ケア会議開催回数は少なかったが、職員の研鑽となり、次年度以降につながる会議となった。 	<p>【強み】(特に評価の高い点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例検討方法を積極的に学び、次につなげることができた。 <p>【弱み】(改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己研鑽の機会を作り、質を更に高めていく必要性を感じている。 ・地域の社会資源を把握し、ケアマネジャー等に発信していく必要性を感じている。 ・地域の勉強会を更に充実させていく必要性を感じている。 ・地域ケア会議開催件数が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域の主任介護支援専門員とも協働し勉強会の内容充実を図りケアマネの資質向上に努める。事例検討会についても側面的な支援を継続していく。 ・ケアマネジャー連絡会等関係団体と連携し、ケアマネ支援体制を構築していく。 ・地域の社会資源情報(サ高住・買い物支援等)を収集し、ケアマネジャーにも発信することで利用者への支援の幅を広げてもらう。 ・ケアマネジャーへの個別支援充実のためにも、包括職員へのスーパービジョン等でスキルアップを更に図る。 ・委託プランを通じてケアマネへのアプローチを強化していく。 ・ケアマネジャーへの支援を通じて個別・圏域の地域ケア会議も活用し課題の解決や発掘・市への提言に努める。 		

項目	実施報告	課題整理	事業計画(具体的に取り組むこと)
認知症推進策の	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症関連の相談・対応は増加しており、状況に応じて推進員に地域ケア会議等でアドバイスを求め、地域づくりのきっかけにしている。 ・小・中学校でのサポーター養成講座開催時は参加し、講座の主体的開催にも道筋を付けた。 ・メイトの講習に4名を参加させ、地域づくりのきっかけとした。 ・研修会を通じて圏域にいる「みまもりたい」等と関係を構築している。 ・認知症初期集中支援チーム対応件数は少なかったが、ノウハウを学び、来年度への足掛かりとしている。 	<p>【強み】(特に評価の高い点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メイトの講習に4名を参加させ、地域づくりのきっかけとした。 ・認知症利用者への対応力が向上しており、安定や終結に至る方を増やすことができた。 <p>【弱み】(改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症や認知症初期集中支援チームについて更に学び開催させる必要性を感じている。 ・認知症に対する早期対応力を上げていく必要性を感じている。 ・様々な機関との協力し、認知症に対する普及啓発、地域づくりの必要性を感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サポーター養成講座、地域勉強会・徘徊模擬訓練を開催し(同時、各単体)啓発活動の充実を行う。 ・圏域にいる「みまもりたい」等との集まりを開催し、活動に繋げていく。 ・キャラバンメイトの活動が強化できるようアプローチする。
在宅医療連携推進	<ul style="list-style-type: none"> ・各医療機関と連携し、カンファレンスなどへの積極的な参加を通じて情報共有を行い、関係強化も図る中で入退院時の支援や対応が迅速に行えるよう努めた。 ・地域特性からか、癌患者の対応が増えており、医療機関・事業所・ケアマネ等と連携し、自宅での看取りも視野に入れたアプローチに心がけた。 	<p>【強み】(特に評価の高い点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療機関等に積極的に連絡し関係作りを行っている。 <p>【弱み】(改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療機関・医療介護連携センター等との更なる連携の必要性を感じている。 ・がんを中心に三大疾病の予防や支援事例等の普及啓発活動の必要性を感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・癌に対する普及啓発(療養方法、介護方法、予防、看取り)のため地域講演会を開催する。 ・病院へのチラシを作成し、病院外来と連携し、早期に対応できるシステムを構築する。 ・対象者の意向に沿い居宅介護支援事業所や施設、医療機関や医療介護連携センター連携を図り迅速な退院支援が可能になるよう努める。
生活支援体制整備	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議数が少なく、地域状況を把握する等までには至らなかった。 ・総合相談等を通じて社会福祉協議会や生活支援コーディネーターと連携し、地域の社会資源開発や地域課題の掘り起こし・解決に努めてきた。 ・防災を通じた地域とのネットワーク作りに参画している。 	<p>【強み】(特に評価の高い点)</p> <p>【弱み】(改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議開催増を目指し、積極的に行動する必要がある。 ・地域ケア会議を意図的に地域づくりに活用していく必要がある。 ・老人クラブやサロン等に積極的にかかわっていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他圏域で開催される地域ケア会議を今年度も積極的に見学していく。 ・今後も総合相談、地域ケア会議・防災会議等を通じて社会福祉協議会や生活支援コーディネーターと連携し、地域の社会資源開発や地域課題の掘り起こし・解決に努める。 ・民生委員・町内会・老人クラブとの連携の中で地域の社会資源や地域情報の集約を行い地域づくりに寄与する。
一般介護事業	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防教室から発展したサロン活動の自主運営にも支援を行っている。 ・老人クラブが解散した地域の再構築ため(錦西、すずらん)、シルバーリハビリ体操指導士等による教室の立ち上げ・運営を支援し、ボランティアの養成を行った。 ・美原町サロンとシルバーリハビリ体操指導士をマッチングさせ、サロンの強化を支援した。 ・シルバーリハビリ体操指導士の研修会に参加し、来年度以降の活動作りの土台とすることができた。 ・地域で自主的に立ち上げたサロンが継続できるよう支援している。 	<p>【強み】(特に評価の高い点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防教室は定着し参加者が多い。 <p>【弱み】(改善が求められる点)(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジメントや予防教室等を通じて、更なる地域診断と課題の抽出の必要性を感じている。 ・シルバーリハビリ体操指導士との関係を構築し、徒歩で参加できる運動の場を増やしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種自主サークルに対してもアドバイス・相談等の支援を継続する。 ・シルバーリハビリ体操指導士との関係を構築し、場の提供(立ち上げ支援)、スキルアップ等の支援を行う。 ・立ち上げ支援を通じて地域の問題点等を確認し、更なる活動へ繋げていく。

苫小牧市地域包括支援センター 令和4年度事業報告及び令和5年度事業計画

しらかば地域包括支援センター

【重点課題】		【重点目標】	
<ul style="list-style-type: none"> ・職員のメンタルヘルス、業務過多への対応 ・地域ケア会議、認知症初期集中支援チームの活動数が少ない ・地区民児協、町内会等との連携不足 		<ul style="list-style-type: none"> ・職員のメンタルヘルス、業務過多について検討し、職員の体調悪化を防ぐ ・地域ケア会議、初期集中支援チームの活動を増やす ・地区民児協、町内会等の会議への参加を増やし、地域ネットワークの構築を図る 	
項目	実施報告	課題整理	事業計画(具体的に取り組むこと)
の業務運営推進体制へ	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年1～2月に2名体調不良の為休職となり、3月末で1名退職となり、人員不足の中で業務を行っていたが、業務過多でその他の職員も体調不良で休むことがあり、運営体制が整わない中で進めてきた。 	<p>職員のメンタルヘルス、業務過多への対応が上手く行かず、在籍職員の負担が掛かる中で業務を遂行した。法人職員の応援や募集を行っているも、職員減での対応を余儀なくされている。法人でも職員募集を行っているが、集まらないのが現状。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員体制の整備、及び増員。 ・業務の整理を行い、業務を遂行する。 ・職員の健康を維持するため、業務を抱え込まない相談しやすい環境を整備する。(毎朝職員間でケース報告及び業務の進捗報告を行い、センター間で情報共有を行う。困難ケースは適宜ケース検討を行う。)
共通の基盤構築	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホーム、小規模多機能型居宅介護、地域密着型特養の運営推進会議への参加、地域のサロン活動へ運動指導員、看護師の派遣を実施した。 ・地域の民生委員から相談を受け、同行訪問を実施した。 	<p>【強み】(特に評価の高い点)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地区民児協や町内会の集まりに参加し、顔なじみの関係をつくる。(R5年度は日新町を中心に実施) ・運営推進会議への参加し(3か所以上)、地域の現状を報告し、連携を取りやすい体制をつくる。 ・地域ケア個別会議の開催を4回実施し、地域課題の発掘を行う。
		<p>【弱み】(改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議開催に向けての視点が不十分である。 ・地区民児協や町内会の集まりに参加できていない。 	
総合権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会長、地域住民、民生委員からの相談を受け、訪問同行を実施した。 ・介護福祉課や総合福祉課、後見センター等と連携し総合相談を実施した。 ・社協のCSWと連携し同行訪問行った。 	<p>【強み】(特に評価の高い点)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワンストップサービスの相談機関として適切な支援に繋がるための状況把握、アセスメントの実施し、迅速に対応する。 ・相談技術の向上、3職種の専門性を生かし関係機関との連携の強化できるよう、まずセンター間で情報を共有し役割分担を行う。 ・成年後見支援センターとケースの対応時に連携を図ることで、虐待対応支援を強化していく。
		<p>【弱み】(改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虐待対応はなかったが、虐待発生時に迅速に対応するため職員のスキルアップが必要。 ・連携への対応や視点を広げるためのスキルアップが必要である。 	
メケ括トマ・支援継続	<ul style="list-style-type: none"> ・西地域包括支援センターと合同でケアマネ支援勉強会をZOOMや集合等で実施し、活動支援を実施した。 ・ケアマネジャーに対する個別相談を実施した。 	<p>【強み】(特に評価の高い点)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・西・しらかば圏域のケアマネ支援勉強会を毎月開催する。勉強会は、包括主体ではなく、ケアマネジャー主導による企画調整のサポートを行う。 ・ケアマネジャーからケース相談等が来た際に対応する。個別支援を積み重ね、地域課題の整理、地域ケア個別会議を年4回、圏域会議を1回実施し、地域課題を整理する。
		<p>【弱み】(改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議の開催数が少なく、地域課題発見に至っていない。圏域会議は開催に至らなかった。 	
認知症推進策の	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校2校、中学校2校での認知症サポーター養成講座の講師を実施した。 ・認知症の相談を受け、受診同行を行った。 ・認知症初期集中支援チーム員会議は1件実施し、支援した。 	<p>【強み】(特に評価の高い点)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症初期集中支援チームの活動(年3回予定) ・サポーター養成講座の講師派遣を継続する(小・中学校) ・認知症地域支援推進員と認知症の地域課題について打ち合わせを実施し、認知症普及や捜索訓練等の実施方法を検討する。
		<p>【弱み】(改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症初期集中支援チームの活動数が少なかった。 ・認知症地域支援推進員との連携がない。 	
介護在宅進連医療推	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関から退院支援の連絡をもらい対応。 ・総合相談にて対応した方で必要時、受診同行を行う。 	<p>【強み】(特に評価の高い点)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関との連携を密にし、退院前カンファレンス等に参加し、スムーズに在宅に戻れるよう退院支援を行う。 ・連携に係る研修会(在宅あるある会等)に参加し、職員の多職種連携の理解を深める。
		<p>【弱み】(改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携に係る研修会への参加が少ない。 	
体生活整備支援	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援コーディネーターとの同行訪問を実施した。 ・避難行動支援者支援制度について、情報提供及び打ち合わせに参加し、地域とのつながりができた。 ・生活支援コーディネーターと介護福祉課と地域課題について打ち合わせを行い、今後の展開について情報共有を行った。 	<p>【強み】(特に評価の高い点)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議の開催(上記記載) ・生活支援コーディネーターと連携し、地域課題について検討する場を設ける。
		<p>【弱み】(改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議の開催数が少ない。 ・圏域会議までの開催に至らず。 	
予一般事業介護	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防教室を日新、川沿、しらかばの3会場で運営した。 ・柏木サロンへの運動指導員、看護師の派遣を行った。 	<p>【強み】(特に評価の高い点)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防教室を定期開催し、参加者の状況を把握し、状態変化があった際、早期に介入する。 ・柏木サロンへの運動指導員、看護師の派遣の継続。 ・シルバーリハビリ体操指導士との話し合いの場を設けて、圏域でのサロン開催に向けての検討を実施する。 ・介護予防について講話の開催の企画を検討する。(6月予定)
		<p>【弱み】(改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シルバーリハビリ体操指導士との連携が取れていない。 ・介護予防に係る講話など地域との連携不足 	

苦小牧市地域包括支援センター 令和4年度事業報告及び令和5年度事業計画

山手地域包括支援センター

【重点課題】		【重点目標】	
<ul style="list-style-type: none"> 地域の協力者が不足 自助としての介護予防が浸透していない 認知症患者の増加、地域の対応力不足 職員のストレス過多 		<ul style="list-style-type: none"> シルバーリハビリサロン等を通して、地域での協力者を確保する 介護予防を自発的に取り組める仕組みづくり 認知症患者やその家族が地域で安心して生活を送れる基盤づくり 職員の負担、ストレスを軽減できる仕組みづくり 	
項目	実施報告	課題整理	事業計画(具体的に取り組むこと)
業務推進体制への運	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年は5月に管理者が交代した。 新任の主任ケアマネジャーを確保する。 主任ケアマネジャー1名、保健師1名、社会福祉士2名、ケアプランナー2名、社会福祉士兼事務員1名の計7名で稼働している。 年度末に職員1名が退職した。 多数の相談と給付管理があったため、チームを組んで分担し、効率化を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 管理者の交代があったことや通算5年以上勤務の職員が殆どいないことから、業務に不慣れな部分があり、業務遂行に時間を要することや判断が難しい場合がある。 相談、給付件数が増加傾向にある。 以上のことから、職員に負担がかかり、ストレス過多となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 一部の職員に負担が集中しないように、業務バランスを再検討し、職員の経験や能力に応じて業務を割り振る。 町内会や民生委員等の協力を得て、地域住民の見守り体制を強化するなど、役割分担しながら、増加する相談に対応していく。 週に1回開催しているケース検討会議等を活用し、部署内で相談しやすい環境を整備する。
基盤構築	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員や町内会等、地域からの個別相談に多数対応した。 病院や警察等各関係機関と連携し対応している。 シルバーリハビリ体操指導士の活動支援等、住民の積極的な介護予防活動をバックアップすることができた。 地域ケア会議予定数10件に対し開催数が不足、目標に届かなかった。 地域ごとの関わりに濃い、薄い差が出ている。 	<p>【強み】(特に評価の高い点)</p> <ul style="list-style-type: none"> シルバーリハビリ体操指導士の活動支援等、住民主体の活動支援ができた。 多数の相談に対応している。 各関係機関との円滑な連携ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も関係機関と連携しつつ、多くの相談に対応する。 住民活動の支援も継続し、住民同士のネットワークを構築する支援など、新たな取り組みも随時提案する。 個別課題解決や地域課題発掘のため、10回程度開催できるよう地域ケア会議を計画的に実施する。
		<p>【弱み】(改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域ケア会議開催数が予定数に届かない。 	
総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> 認知症、精神疾患を有するケースに対して、チームとして対応し解決した。 特に困難なケースについては単独での対応とならないよう、チームで対応する他に定期的なケース会議を設けて各職員で共有している。 包括だけで対応するのではなく、各機関と連携して対応している。 内部研修も企画していたが、未開催に終わっている。 	<p>【強み】(特に評価の高い点)</p> <ul style="list-style-type: none"> チームで対応した。 定期的なケース検討を継続した。 各機関と連携して対応した。 	<ul style="list-style-type: none"> チームでの対応を継続する。 定期的なケース会議に加えて、必要時には在席しているメンバーのみでケース検討が可能となるよう方法を検討する。 各機関と連携して困難ケース等へ対応する。 今年度は虐待対応等について内部研修を開催する予定である。
		<p>【弱み】(改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> 内部研修は未開催である。 	
ア包摂的支援の継続的支	<ul style="list-style-type: none"> 適宜ケアマネジャーからの相談を受けている。 特に困難なケースや、居宅介護支援事業所内で解決出来なかったケース等が持ち込まれているが、複数職種で相談を受け、対処を検討している。 山手南ケアマネ連絡会を通して圏域内ケアマネジャーへのバックアップを進めていたが、新型コロナウイルス感染症の影響で少なからず開催出来ない月もあった。 山手南ケアマネ連絡会開催時は南包括や各居宅事業所と連携し、円滑な開催が出来ている。 	<p>【強み】(特に評価の高い点)</p> <ul style="list-style-type: none"> 困難ケース等の対応でケアマネジャーと連携している。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続してケアマネジャーと協働し、連携を強めていく。 居宅介護支援事業所内で主任ケアマネジャーとその他のケアマネジャーが協力して困難ケース等の対応が出来るよう、体制の整備を検討する。 山手南ケアマネジャー連絡会においても定期開催をしつつ、ケアマネジャーが主体的に開催できるようバックアップをしていく。
		<p>【弱み】(改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> 山手南ケアマネ連絡会は毎月開催には至らなかった。 ケアマネジャーの自主的な運営に至らなかった。 	
認知症推進策の	<ul style="list-style-type: none"> 認知症キッズサポーター養成講座を実施した。 認知症初期集中支援チームと地域ケア会議を組み合わせ実施し、地域での見守りを受けながら自宅生活が出来る環境を整える等、活用している。 認知症見守りたいの活用も検討している。 声掛け模擬訓練の開催には至っていない。 	<p>【強み】(特に評価の高い点)</p> <ul style="list-style-type: none"> 認知症初期集中支援チームと地域ケア会議を組み合わせ、自宅生活が出来る見守り体制を作っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 認知症初期集中支援チームと地域ケア会議を組み合わせを行い、見守り体制構築を進める。 認知症見守りたいの活用を検討、地域ケア会議等の参加や見守りチームへの組み込み等、活躍の場づくりを行政と共に目指す。 声掛け模擬訓練等の開催を、町内会等の地域組織に提案、協力する。
		<p>【弱み】(改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> 圏域に住む認知症見守りたいメンバーは把握に止まり、活用に至っていない。 声掛け模擬訓練等は未開催である。 	
介護連携推進	<ul style="list-style-type: none"> 個別ケースについては主治医、担当医やかかりつけ病院と適宜連絡を取り合っており、情報共有を行ってきた。 カンファレンス等への参加も積極的に行っている。 かかりつけ病院がなく医療ニーズの高いケースや、拒否傾向の強いケース等は医療介護連携センターと情報共有、連携を取り協働してきた。 	<p>【強み】(特に評価の高い点)</p> <ul style="list-style-type: none"> 困難なケースにおいては医療介護連携センターと協働し、受診や入院等適切な医療に繋げることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関と適宜連絡を取り合い、情報共有を行う。 退院時カンファレンス等についてはなるべく優先的に出席できるよう業務バランスを調整する。 継続的に医療介護連携センターと協働し、困難ケースや未受診ケースに対応していく。
		<p>【弱み】(改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> 退院が急となる場合に日程調整が出来ず退院カンファレンスに出席できない場面があった。 	
体生活整備	<ul style="list-style-type: none"> 生活支援コーディネーターとのやりとりが徐々に行えるようになりつつあり、お互いの活動の情報共有を行った。 包括で吸い上げた困りごと、生活支援コーディネーターが吸い上げた困りごとを共有し、課題解決のためのミーティングを不定期で設けている。 	<p>【強み】(特に評価の高い点)</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度までは殆どできていなかった生活支援コーディネーターとのやり取りが進み、お互いの活動の情報共有を行えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活支援コーディネーターとの情報共有を定期化していくことで、お互いに把握している課題等の共有を目指す。 生活支援コーディネーターと情報共有のミーティングを6ヶ月に1回程度設ける。
		<p>【弱み】(改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題共有のミーティングについて、定期化するまでには至っていない。 地域サロン参加がほぼできなかった。 	

予 一 防 事 介 業 護	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して4会場にて介護予防教室を実施した。 ・新型コロナウイルス感染症の蔓延が徐々に落ち着きつつある中では、定期的な開催をすることができている。 	【強み】 (特に評価の高い点) <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に4会場で介護予防教室を実施、運動やレクだけでなく講話やウォーキング等、幅広い活動を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して4会場での教室を開催する。 ・講話やウォーキング等、体操以外の活動も継続的に実施していく。
		【弱み】 (改善が求められる点) <ul style="list-style-type: none"> ・町内会等からの講話依頼等がなく、介護予防の意識付けが低下する懸念がある。 	

苫小牧市地域包括支援センター 令和4年度事業報告及び令和5年度事業計画

南地域包括支援センター

【重点課題】		【重点目標】	
総合相談・個別支援においては、身寄りがない人、精神疾患の状態にあるが病識に乏しいケースなど、相談の複雑化や対応が長期化するケースが年々増加している。また、地域や関係機関からの相談も依然増えている状況である。これは地域特性でもあり、地域特性を踏まえた支援体制を構築していくことが重要である。		職員の相談対応技術の向上を目指し、地域づくりの地盤開拓、関係機関の連携強化を図る。	
項目	実施報告	課題整理	事業計画(具体的に取り組むこと)
業務推進体制への運	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍が継続している中で職員、家族罹患による長期出勤停止などのイレギュラーが多くあったが、他職員のフォローアップなどもありセンターの運営体制に支障を来す事は無く必要な事業もカバーし合い実施する事ができた。 ・各業務に関し理解を深める為にも事業計画を念頭に置く事や互いの役割を理解し業務にあたる事でセンター内の連携が促進された。 	<p>病欠なドイレギュラー時にも対応が出来るように日々の情報共有には時間を掛けている。業務量、数値が増えている現状では必要に応じた分担が重要と考え、普段の業務、事業関係もチームで動く体制を作ってきた。特定職員のマンパワー頼み、全員で行う意識が強すぎると結果として滞りやスピーディーさに欠ける事もあり、センター内の分業、分担が重要と考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各事業関係の安定的な実施を行う ・職員間で検討している包括としての活動の展開の為には時間的余裕が現状より必要であり、増加の一途である各職員の予防プラン担当数を減らす為にもプランナーの増員を行う。 ・センターの総合的な対応力を向上する為にも、相互理解、分業、分担やチームでの活動を継続的に進める。
共通の基盤構築	<ul style="list-style-type: none"> ・継続した個別支援の積み重ねによる顔の見える関係性が構築されて来ており、地域の心配な高齢者に関する相談など、行政・福祉事業所などの関係機関のみならず、地域のコンビニ、一般の企業からの相談、連携するケースも増えて来ており早期発見・早期対応に繋がっている。 ・認知症フレンドリーファームの活動を行い、認知症高齢者の社会参加の場づくりのみではなく、地域にある複数の保育園・幼稚園・高等学校など多世代との繋がりも意識し活動を行なっている。 	<p>【強み】(特に評価の高い点) 職員の入れ替わりが少ない為、地域の関係機関、民生委員との関係、連携が強化されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症フレンドリーファーム活動の継続 ・各地区の地区民協に参加する等、年1回以上民生委員と連携を図る。 ・これまで抽出した地域課題の整理を行い、何が必要かを生活支援コーディネーターと検討する(年度内1回以上実施予定)
		<p>【弱み】(改善が求められる点) コロナ禍の影響があり民生委員児童委員協議会などの集まりへの参加機会が遠のいている。地域ケア会議の実施など課題抽出の機会も多く設けているが資源開発にはまだ至っていない。</p>	
総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> ・総合相談は多岐に渡る為、各専門職の専門性を活かし複数の職員で対応しており、広い視野の確保、職員の精神的な負担軽減にも繋がっている。日々支援方針に関しての検討や、定期的なカンファレンスなどでも支援の方向性など共有し対応をしている。 ・多問題ケースなどは行政とも連携し報告、相談、対応を行なっている。 ・権利擁護が必要なケースは成年後見支援センターとも連携し対応を行っている。 	<p>【強み】(特に評価の高い点) 相談が多様化、複雑化している状況だが、地域ケア会議の展開、カンファレンスへの参加など必要な機関とも協働し対応を行なっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民、居宅介護支援事業所等の福祉事業所、職員向けに後見制度、消費者被害について知識を深める為の普及啓発、研修会などを行う。(認知症見守りしたい等の一般市民、従事者向けを各1回ずつ開催予定) ・圏域内の特徴として身寄りのない高齢者が多く、今後も増えて行く事が予想される為、市主催の研修会に参加し、関係機関とも連携を深められるよう努める。
		<p>【弱み】(改善が求められる点) 権利擁護について地域住民に対し予防的観点での普及啓発の取り組みが必要。</p>	
包括的支援の継続	<p>圏域ケアマネ会の開催にあたり、地域のケアマネジャーに事務局を交代で担って貰う事で主体的な役割を持って貰っている。センター職員、複数の居宅支援事業所とで年に数回、運営についての話し合いの場を持ち意見を反映した活動を行なっている事で様々なネットワークの強化にも繋がっている。地域のケアマネジャーからの相談も増えており地域ケア会議の実施、後方支援の機会も増えている。</p>	<p>【強み】(特に評価の高い点) 職員の入れ替わりが少ない事で地域のケアマネジャーとも連携する機会が積み重なり、関係性が構築されて来ており相談出来る関係性が構築されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個別地域ケア会議の継続、積み重ねる事で課題の発掘を行っていく。(年9回実施予定) ・課題の整理を行い、地域住民、関係機関と共有を行う圏域ケア会議を行う。(年1回実施予定) ・居宅ケアマネジャー会で地域包括ケアシステムの理解を深める為の研修を行う。(年1回実施予定)
		<p>【弱み】(改善が求められる点) 課題抽出、把握の機会も多くあるが整理しその後という所に課題がある。圏域会議の実施などは未実施の地区もありエリアを変えて展開して行く必要がある。</p>	
認知症推進策	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症初期集中支援を行い、本人や家族の支援、地域ケア会議に繋いでいる。 ・個別支援ケースの活動を通じ、多世代との関わり、ネットワークづくりを意識した活動を行なっている。包括職員の半数はキャラバンメイドであり認知症キッズサポーター養成講座なども分担し行なっている。 ・包括職員として地域の認知症カフェに参加し地域住民との関わり、サポーターとの連携も意識し活動をしている。 	<p>【強み】(特に評価の高い点) 認知症地域支援推進員の配置があり、認知症施策に関して意識、考える機会が多くある。普及啓発、展開などには力を入れている。認知症初期集中支援など行う意識を高めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症初期集中支援チーム活動の継続(年6件) ・認知症フレンドリーファームの活動を継続する。 ・圏域の認知症カフェへの支援(企画・運営)、連携を図る。 ・認知度の低い若年性認知症について、ケアマネジャー会や地域の関係機関、地域住民に普及啓発の機会を作る。(年1回開催。研修会の内容を動画で配信予定) ・認知症サポーター養成講座を通じ普及啓発を積極的に行う。
		<p>【弱み】(改善が求められる点) 認知症疾患の大多数は高齢者である事から若年性認知症への普及啓発には課題が残る。</p>	
在宅医療連携推進	<p>各医療機関との連携については相談、カンファレンスの参加依頼なども増えており個別ケースを通じ年々深まっている。医療介護連携センターと個別支援レベルでは同行訪問などが出来ているが、地域包括支援センターとして地域との関係機関と協働し共通の課題について認識を深め対策を協議するなどには至っていない現状である。</p>	<p>【強み】(特に評価の高い点) 個別支援レベルでは連携はスムーズに行えており介護保険のサービス調整はスピーディーに出来ている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のケアマネジャー会で医療介護の連携に関するアンケート調査を実施し、その結果を基に、とまこまい医療介護連携センターと、医療機関との連携を考える意見交換会を実施する。
		<p>【弱み】(改善が求められる点) 医療介護連携における現状の課題把握の機会が少ない為、連携がよりスムーズになる仕組みづくりなど、その先の部分には至っていない。</p>	
生活支援体制整備	<p>地域の課題把握に繋がるケア会議は数多く実施し続けており、会議には生活支援コーディネーターや介護福祉課、総合福祉課、住宅管理課、生活支援課など関係機関職員にも参加頂き連携強化に繋がっており今後も必要と考える。特定のエリアではあるが生活支援コーディネーターと連携し灯油運びボランティアを展開する事ができた。</p>	<p>【強み】(特に評価の高い点) 地域ケア会議事業が始まってからコンスタントに必要なケース支援の際に事前に検討を行い、会議の実施に繋がり課題の抽出は出来ている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・吸い上げた地域課題を整理し、生活支援コーディネーターと資源開発に向けて話し合う機会を設ける。(年1回以上) ・以前作成した地域資源を可視化する資源マップを修正し、町内会等に周知する。
		<p>【弱み】(改善が求められる点) 日々の支援経験や地域ケア会議などで抽出した地域課題は多くあるがその後の展開に繋げる活動に時間が割けていない。</p>	

項目	実施報告	課題整理	事業計画(具体的に取り組むこと)
予一般事介護	<p>一般介護予防教室については引き続きコロナ禍ではあったが参加人数の制限、感染症対策を行い前年に比べ開催する事ができた。</p> <p>参加者からは運動重視の希望が多く講話の機会を設ける事が少なかった。チャレンジ9を使用しフレイル予防に繋がるよう努めた。</p> <p>シルバーリハビリ体操指導士交流会に参加する事で顔の見える関係を構築、意見交換に参加し今後の活動展開を模索する事ができた。</p>	<p>【強み】(特に評価の高い点)</p> <p>教室担当スタッフは介護予防等経験のあるスタッフなどが多く介護予防についての重要性、情報など普及啓発は継続的に行っている。</p> <p>【弱み】(改善が求められる点)</p> <p>教室では講話等、学習の機会が少なかった。距離の都合で教室に来づらい地域など地域差がある現状。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現在活動しているシルバーリハビリ体操指導士と連携を深めるため、今後の展開について等話し合いの場を持つ。(年1回以上) ・介護予防教室で消費者被害や高齢者虐待等の様々な講話の実施、災害時に備えた訓練なども行う。(年1回)

苫小牧市地域包括支援センター 令和4年度事業報告及び令和5年度事業計画

中央地域包括支援センター

<p>【重点課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域性から複数課題を持つ対象者の相談が多く、病状確認（認知症含む）や権利擁護支援、環境整備など一事業所では対応しきれない状況が続いているため、多職種・他機関が連携したチームアプローチが必要。 ・多くの業務を少人数で対応せざるを得ない現状から、介護予防、認知症施策など関係機関と役割分担をしながら、長期的、計画的に進めていく必要がある。 		<p>【重点目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者が置き去りにならないよう個別課題の解決を優先し、地域や他機関と協働しながら支援することで、多職種連携や地域ネットワークづくりを継続していく。 ・地域包括ケアの構築を目指し、委託型地域包括支援センターの役割を再確認しながら、地域や他機関等と協働できるよう地域展開していく。 ・地域ケア会議の機能を十分に発揮できるよう継続して取り組んでいく。 	
項目	実施報告	課題整理	事業計画(具体的に取り組むこと)
業務推進体制への運営	<ul style="list-style-type: none"> ・複雑な相談が重複してくることも多く、解決までに時間がかかったり、新たな業務が加わったりと、業務全体が円滑に進まない現状がある。また、慢性的な人手不足から、個々にかかる負担も大きくなってきている。 ・地域ケア会議等を活用しながら、他機関と連携、役割分担等を行い、適切に業務が遂行できるよう努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・慢性的な人材不足から、多様化・複雑化する各種相談への対応で追われている。 ・業務を円滑に遂行するためには、現場と行政、個人と地域などとらえ方、考え方などの統合し整理できる体制づくりが必要。 ・以前から継続し、地域ケア会議やカンファレンスで地域や関係機関等との連携強化を図ってきた効果が、徐々に地域にも浸透し協働できる体制も整ってきているため、今後も継続していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人材募集と育成を継続していく。 ・個人で抱え込まない支援。組織的な関わりや連携を強化していける体制づくりを継続する。 ・地域や他機関と協働できるような働きかけの機会（地域ケア会議等）を企画、開催していく。（目標：個別会議10回、圏域会議5回、カンファレンス随時）
共通の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・長年取り組んできた地域ケア会議からの地域ネットワークづくり、関係づくりを継続して取り組んだ。 ・対象者の生活活動の地域（圏域外も含む）を巻き込んだ早期相談、見守り体制の構築に努め、多職種・多機関連携を意識し事業所全体で取り組んだ。 ・東・明野地域包括支援センターとのカンファレンスを再開し、情報交換も含めた連携強化を図った。 	<p>【強み】（特に評価の高い点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続的に取り組んできたことで、少しずつでも地域に浸透し協力体制もできてきている。 ・職能団体や他の地域包括支援センターとも連携しながら、研修、ケアマネとの協働等活動が行えている。 <p>【弱み】（改善が求められる点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時代の変遷、民生委員や関係機関、包括職員の変更などでの関係づくりを常に求められる。（担当者が変わると振出しに戻る） 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度と同様に、重層的支援体制を視野に入れ、地域ケア会議やカンファレンスを積極的に行うことで、他機関や他分野との連携が取れるよう組織的な関わりを行っていく。 ・上記取り組みから早い段階から連携をすることで、それぞれの役割が明確になるよう働きかける。
総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や家族、関係者への支援も、他機関と連携しながら取り組んだ。 ・一機関では解決できないような課題に対しても、地域ケア会議などを活用しながら関わることで、課題解決や地域課題の発見につながるよう努めた。 ・権利侵害の疑いがある場合は、早い段階から行政と連携するよう心掛け、成年後見制度なども活用しながら、適切な対応に努めた。 	<p>【強み】（特に評価の高い点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険以外の制度や地域の協力が得られる体制づくりを継続して行ってきた。 ・多職種と連携しながら、課題の終結を意識した支援を行ってきた。 <p>【弱み】（改善が求められる点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症＋精神疾患、対象者以外の家族にも支援が必要など、複雑化してきている相談への対応。 ・関係機関の違いでも受け止め方や捉え方、支援方針などの差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談対応から、他分野・他機関との連携強化を図りながら、地域包括ケアシステムの推進を図る。 ・権利侵害を受けている高齢者が安全に生活できるまでを意識した支援を続け、ケアマネジャーやサービス事業所、施設なども巻き込んだサポート体制を構築していく。
包括的・継続的ケアマネ	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で困っている、ケアマネジャーが困っているなど間接的な相談などにも地域ケア会議等を有効活用し、地域や多機関との役割や関りを明確にするよう意識して取り組んだ。 ・圏域ケアマネジャー会や研修会など、他機関と協力しながらZOOM等も活用しながら、事例検討や情報の共有を継続的に行い、繋がりや連携強化を図った。 ・個別ケースの積み重ねから、双方の困りごとを圏域地域ケア会議に発展させ、地域課題の共有や地域と関係機関の顔の見える関係づくりを行った。 	<p>【強み】（特に評価の高い点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議を積み重ね、地域や関係機関との連携の強化を図った。 ・別ケースで構築された地域の見守り体制が、その他のケースでも活用されるようになってきた。 <p>【弱み】（改善が求められる点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジャーが地域と連携する意識が持てるよう、地域ケア会議などで有効性を伝えていく工夫が必要。 ・地域の住民層によって理解や支え方に違いがあるため、地域特性を理解し、それぞれに効果的なアプローチが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者に不具合が起きないよう地域ケア会議やケアマネ会を活用しながら、地域包括ケアシステムでの自分たちの役割を意識できるよう働きかける。 ・地域住民、事業所や医療機関等の顔の見える関係性作りを継続する。 ・サービスだけで解決できない問題も一体でかかわっていけるよう地域ケア会議を積極的に活用する。
認知症推進策の	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成講座(圏域内中学校)に協力し、認知症の理解や普及、啓発に努めた。 ・認知症初期集中支援の対象者の選定、支援方針、終結時期など、チームで相談、協働しながら対応することを心掛け、早期の課題解決に取り組んだ。 ・地域ケア会議やカンファレンス等の対象の多くが、認知症や精神疾患が原因での地域トラブルのため、医療機関や金融機関等とも協働しながら地域での受け入れや見守りの協力などを働きかけ、認知症等の理解が得られるよう心掛けた。 	<p>【強み】（特に評価の高い点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・包括内で情報共有・整理を行い、それぞれに合ったアプローチを実践している。 ・地域ケア会議などで参加者が認知症を理解しつつ、見守りできるようなネットワークづくりを行って <p>【弱み】（改善が求められる点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集合での研修や会議の自粛から、認知症の理解や協力を働きかける機会が少ない。 ・認知症見守りたいを活用していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症初期集中支援チーム、認知症地域推進員と協働し、多職種で支援していく体制づくりを行う。 ・地域ケア会議やカンファレンス等を積み重ねることにより、認知症の理解や関りの協力が得られるような地域づくりに向け働きかけていく。 ・医療、介護関係だけではなく、多くの機関とつながりを持ちながら、高齢者のみならずその家族、地域も含めた支援に取り組む。（発信、早期対応、早期解決、ネットワークづくりなど）

<p>介護連携推進 在宅医療</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入退院支援や受診調整を通して、医療機関や医療系施設との連携を意識的に行った。 ・地域ケア会議等にも医療機関や地域の調剤薬局などの参加を積極的に呼びかけ、参加者が個別課題や地域課題について一緒に考え、検討する機会を作るよう意識的に行った。 	<p>【強み】(特に評価の高い点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の経験(MSWや訪問看護など)を活かし、培ってきたネットワークを事業所全体で共有し活用した。 ・地域ケア会議などから、新たな調剤薬局との連携、協働もできるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療介護連携の課題や現状を相手の立場に立って共通認識できるよう、意識的な働きかけを行う。 ・サービス担当者会議や事例検討から、自立支援の考えや医療と介護の連携がスムーズに行えるよう努める。 ・急性期、回復期の医療機関との連携を強化するため、医療介護連携センターとも協働しながら、働きかけができるか模索する。
<p>生活支援 体制整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個別ケースから地域ネットワークを構築を目指し、生活支援コーディネーターや社会福祉協議会などと協働できるよう、情報交換や情報共有を継続的に行った。 ・こまめに民生委員との連絡を取り合うように心掛け、関係づくりに努めた。 	<p>【強み】(特に評価の高い点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な社会資源情報を持っている機関等との連携を深めることで、それぞれの利点を生かした役割が明確になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域への働きかけや活動が難しい現状(業務量、人員など含む)があり、継続して個別ケースから地域ネットワークの構築を目指していく。 ・個別のニーズからボランティア活動や町内会活動などとのマッチングや開発が可能かどうかなど、生活支援コーディネーター等々と情報交換し、協働していく。(制度などの対象にならないニーズなど)
<p>一般介護 予防事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安易にサービスにつなげるのではなく、本人が何を目標として生活の質の向上を図るのかなど包括内で検討し、将来の方向性を見据えて総合的に判断し、介護保険以外のサービスや制度活用を見極めて、適切な支援が行えるように心がけながら実施した。 ・一般介護予防教室の担当者とも打ち合わせ等を行い、参加者の意見も反映しながら意識統一を図った。 	<p>【強み】(特に評価の高い点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般介護予防教室を長く利用することで、参加者同士の関わりも強くなり、楽しみの場となっており閉じこもりの予防にもなっている。(参加者からの紹介も多い) 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者の自立支援を目指し、生活の質の向上を意識して取り組む。 ・介護予防の必要性を理解してもらうよう地域への啓発を含め、地域ケア会議(圏域)から取り組む。 ・一般介護予防教室からの卒業を目指し、社会福祉協議会や生活支援コーディネーターと協議しながら、シルバーリハビリ指導士等の活用も含め地域活動につながるよう資源の開発に努める。
		<p>【弱み】(改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの立場での認識のずれや役割の違いから、対応のタイミングやスピードなど連携の課題が浮き彫りになることもある。 	
		<p>【弱み】(改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の社会資源の情報収集や整理ができていない。 ・地域への発信力が不足している。 	
		<p>【弱み】(改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般介護予防教室からの卒業先がない。地域の社会資源の情報収集や整理ができていない。 ・ケアマネジャーなどへの介護予防の啓発ができていない。 	

<p>【重点課題】 <<R4年度の課題>> ①地域づくりの取り組みとして、「介護保険外の居場所づくり」「身寄りがない方への支援」の取り組みの積み残しがある。 ②介護保険外の社会資源の周知や開発がまだまだ不足している。 ③認知症の普及啓発がまだまだ不足している。 ④包括業務運営にあたる人員不足。</p>	<p>【重点目標】 <<R5年度の目標>> ①地域づくりの取り組み ・圏域内にシルリハ体操教室を4か所増やす・「介護保険外の居場所づくり」「身寄りがない方への支援」をテーマとした圏域会議を実施する。 ・1つ以上の町内会で支えあいの仕組みを作る。 ②認知症の普及啓発 ・認定こども園で認知症サポーター養成講座を企画、実施する。 ・「認知症と運転免許」をテーマとしたケアマネジャー向けの研修会の企画、運営する。 ・ちょこっと茶屋を活用し、認知症をテーマとした市民向け講演会を企画、実施する。 ・法人ホームページとまいぷれ苦小牧を活用し、認知症に関わる啓発をそれぞれ1回以上取り組む。 ・少人数向けで1回以上認知症サポーター養成講座を企画、運営する。 ③包括業務運営にあたる人員不足の解消に向け、市・法人と話し合う。</p>		
項目	実施報告	課題整理	事業計画(具体的に取り組むこと)
<p>業務推進への運営体制</p>	<p>令和4年度の職員配置は、社会福祉士交代目的で1名法人内で11月に異動。8名（基礎資格は主任ケアマネ2名、社会福祉士4名、看護師2名）で稼働していたが、法人内での交代に至らず年度末に1名退職。包括直轄でのケアプラン数も令和元年度の1.5倍と年々増加する中での包括業務の展開も重なり、全職員の業務負荷が増大した形で年度を終了した。 事業計画はPDCAサイクルを意識し、月に1回の定例会にて確認したが、未達項目も残った。 自己評価を活用し、全職員が包括業務を理解するよう努めた。 業務内容に応じて、市との連携強化も意識し取り組んだ。 人員配置、事業計画の運営は未達である。</p>	<p>・事業計画が未達の物がある。 ・包括業務運営にあたる人員不足。</p>	<p>①PDCAサイクルを意識し、事業計画の到達度を上げるために、事業計画を年間スケジュールに落とし、月1回の内部会議で進捗や課題、修正などを具体的にを行う。 ②包括運営業務や委託費と介護予防給付費等含めた収支の把握に努め、ケアプランナー1名人員確保ができる体制を法人と相談。 ③包括業務と今後も増大が予測されるケアプラン業務の両立を図れる方法に関して市と協議。</p>
<p>共通的支持</p>	<p>・コロナ禍もあり、展開は出来ず未達。 ・3地区の民児協、圏域内の居宅介護支援事業所、サービス事業所等とは個別に、社会資源やニーズの把握と地域課題の共有に努めた ・令和3年に地域課題で挙がっていた「階段のない高層住宅の灯油運搬」の課題に関して、社協、市と協議を重ね、灯油運搬ボランティアの実現に寄与する事が出来た。 ・コロナ禍でちょこっと茶屋を、コープさっぽろ・ぷらちなースと相談しつつ、年間10回 延べ69名の参加で運営することができた。 ・包括内での社会資源集約に向け、社会資源マップづくりに着手した。 目標としては未達。</p>	<p>【強み】(特に評価の高い点) ・包括業務の理解への取り組みとして、美光町内会広報誌に毎月投稿・まいぷれ苦小牧に年間6回投稿により、包括業務や社会資源、介護予防啓発の周知に活用。 ・灯油運搬ボランティアの実現への寄与 ・ちょこっと茶屋をコロナ禍でも継続して運営することができた。</p> <p>【弱み】(改善が求められる点) ・地域の課題を地域全体で話し合う場面づくりが不足していた。</p>	<p>①地域課題の抽出や共有、話し合いを深めることを意識した地域ケア圏域会議を年間2回以上、地域ケア個別会議を年間8回以上実施する。 ②ケアマネジャーや病院などに配布できるような圏域内の社会資源リーフレットを作成する。</p>
<p>総合的権利擁護</p>	<p>・相談記録に関する外部研修に参加。包括内で研修報告会を実施し、記載内容の見直しを行った。 ・各職員が講師となる包括内の研修会を4回実施。外部研修も各職員の状況に応じ派遣。相談支援の質の向上に努めた。 ・虐待、権利擁護関連のケースは、年間40件対応。虐待に関連する事例は、虐待マニュアルと帳票を活用し、市と連携を図り対応を行った。 目標到達。</p>	<p>【強み】(特に評価の高い点) ・ケアマネジャーから虐待の疑いのある事例の相談を受け、居宅介護支援事業所・地域包括支援センターと個別の事例検討を3事例実施。</p> <p>【弱み】(改善が求められる点) ・地域におけるネットワークづくりの部分で、地域ケア個別会議が5件しか開催できず。 ・身寄りのない判断能力が不十分な人への早期介入や支援の仕組みが不十分。</p>	<p>①地域におけるネットワークづくりの促進を意識した地域ケア個別会議を年間8回以上実施する。 ②TMネットワーク会議を意識し適宜活用する。 ③判断能力が不十分な人への早期介入や支援ができるよう、包括内ケースやケアマネジャーからの相談があった際、事例検討を意識的に実施する。</p>

項目	実施報告	課題整理	事業計画(具体的に取り組むこと)
包括的・継続的ケアマネジメント支援	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア個別会議5件、地域ケア圏域会議0件、東明ネットワーク会議1件実施。 ・地域ケア個別会議は、「認知症独居」「支援拒否」「身寄りがない、家族関係が希薄」事例が多かった。 <p>地域課題としては、「地域と関係が薄い方の支援（特に男性）が難しい」「地域住民の認知症疾患の理解が不足しており、インフォーマルな支援に繋がられないことがある」「認知症独居高齢者への勧誘（新聞等）の対策」「身寄りがない方の支援」が挙げられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「身寄りがない方の支援」に関しては、東明ネットワーク会議の開催とその後市・成年後見センター・社協・東包括と会議で挙げた課題への取り組み方を協議し、次年度の活動に繋がった。 ・「介護保険外の居場所づくり」に関しては、地域ケア圏域会議は実施していないが、地域の通所事業所での無料健康教室（期間限定）2か所、シルリハサロン3か所の社会資源開発に取り組んだ。 ・ケアマネジャーやサービス事業所の資質向上に向け、認知症の対応の研修を初任者向・現任者向の2回実施。次年度も引き続き実施していく基盤づくりとなった。 ・ケアマネジャーの困難事例（虐待疑い含む）に関する事例検討を5件実施。地域ケア会議の件数は未達だが、地域課題の抽出や課題解決、ネットワークづくり、ケアマネ支援には目標以上に取り組むことができた。 	<p>【強み】(特に評価の高い点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「介護保険外の居場所づくり」「身寄りがない方への支援」に関しては、個別に取り組む事ができ、次年度に地域ケア圏域会議の実施を行う基盤づくりが出来た。 ・ケアマネジャーやサービス事業所向けの研修を企画・運営する事ができた。 <p>【弱み】(改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア個別会議や地域ケア圏域会議が、タイムリーに実施出来ていないため、計画回数が未達。 	<p>①地域ケア個別会議と地域ケア圏域会議、自立支援型地域ケア会議がある程度計画的に実施できるよう、スケジュール管理を徹底する。</p> <p>②「介護保険外の居場所づくり」として、シルバリーハビリ体操の活動場所を4か所増やす。</p> <p>③「介護保険外の居場所づくり」をテーマに圏域会議を実施し、地域の社会資源（シルリハや無料健康教室含）の課題の抽出をし、自立や予防の視点での地域づくりを行うための意見を集める。</p> <p>④「身寄りがない方への支援」をテーマに継続して圏域会議を企画し、地域の課題の抽出と解決に向けた意見を集める。</p> <p>⑤ケアマネジャー対象の研修会を最低1回次年度も継続して企画実施する。</p>
認知症推進策の	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症初期集中支援チームの活用は6件実施し、終結は概ね3か月以内で行い、目標は到達。 ・キャラバンメイトの講習を2名受け、講師対応ができる人材を増やし、認知症キッズサポーター養成講座を3校対応。目標到達。 ・ほっとカフェ運営の支援を通年実施し、目標到達。 ・認知症サポーター養成講座や検索模擬訓練は未実施。未達。全体的にはほぼ達成だが、認知症サポーター養成講座は未達。 	<p>【強み】(特に評価の高い点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成講座への関わりは、以前からの積み重ねもあり、継続・拡大ができた。 <p>【弱み】(改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サポーター養成講座や検索模擬訓練の開催の計画はあったが、その具体化ができず、未達となった。 	<p>①認知症初期集中支援チームとしての役割を果たすため、年間6件以上、3か月の期間の介入を目標に取り組む。</p> <p>②認知症の対応に関する質の向上に向け、ケアマネジャー対象の研修の企画を行う。</p> <p>③認知症サポーター養成講座を認定こども園で企画する。（子どもが対象だが、その親への啓発も目的に含む）</p> <p>④小さい規模の認知症サポーター養成講座を1回以上企画・運営できるよう、スケジュール管理に取り組む。</p> <p>⑤ちょこっと茶屋を活用し、1回認知症に関する講演会を企画・運営する。</p>
在宅医療連携推進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア個別会議5件開催中、医療機関2件出席あり。東明ネットワーク会議にも総合、精神科、内科、薬局、医療介護連携センターなどの出席が有。会議を元に地域課題の共有や連携、解決へのアイデアを集め、連携強化に努めた。目標は概ね到達。 ・地域リハビリテーション活動支援事業を活用し、圏域内の機能強化型デイ2か所のプログラム見直しや職員の質の向上への支援に寄与した。 <p>全体的にはほぼ到達。</p>	<p>【強み】(特に評価の高い点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議を重ねる中で、医療機関が地域の中で起きている課題を知る機会が少ない事に気づいた。 <p>【弱み】(改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア個別会議、地域ケア圏域会議の開催が少なく、地域課題の共有や解決へのアイデアを集める機会が少ない。 	<p>①地域ケア個別会議を年間8回以上、地域ケア圏域会議を年間2回以上できるよう、スケジュール管理に取り組む。</p> <p>②地域リハビリテーション活動支援事業を活用し、圏域内の機能強化型デイ2か所への支援に寄与する。</p>
生活整備支援	<ul style="list-style-type: none"> ・エレベーターのない高層住宅の灯油給油と火気管理」に関して、社協・市・MMSと協議を重ね、社協の「だけボラ：灯油運搬」の活動開始の準備に寄与した。 <p>目標到達。</p>	<p>【強み】(特に評価の高い点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社協の「だけボラ：灯油運搬」の活動開始の準備に寄与できた。 ・介護保険外の社会資源の発掘に取り組む事ができた。 <p>【弱み】(改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域全体での現状や課題の共有、その解決に向けたアイデアを集約する機会が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「身寄りがない方の施設入所の課題」をテーマに圏域会議を実施し、現状や課題の共有、その解決に向けたアイデアの集約を行う。 ・圏域会議の実施で、出た案の中で取り組めそうな内容が出た際は、生活支援コーディネーターや市、成年後見支援センターなどと協議を重ね、解決に向け取り組む。
予一般事介護	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防教室は、環境整備・プログラム内容を随時見直し、コロナ禍ではあったが安全に予定通り実施することができた。計画達成。 ・圏域内の機能特化型デイサービス事業所に働きかけ、期間限定の無料健康教室の開催を2か所支援。 ・シルバリーハビリ体操指導士を活用した介護保険外の居場所づくりの3か所開催支援。 <p>目標以上の取り組み。</p>	<p>【強み】(特に評価の高い点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防教室をボランティアの協力を得て、安全に予定通り開催する事ができた。 ・介護予防に関する場所づくりを具体的にすることができた。 ・美光町内会広報誌で介護予防教室や介護予防の重要性に関する記事の投稿を行った。 <p>【弱み】(改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険外の介護予防に関する社会資源が圏域内で不足している。 ・期間限定の無料健康教室やシルリハの活動などは開始されたが、運営の課題やその解決への支援が今後必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・シルバリーハビリ体操を活用した介護保険外の居場所づくりの新規立ち上げの支援を4か所実施する。 ・「介護保険外の居場所づくり」の圏域会議を実施し、情報や課題の共有、その解決に向けたアイデアの集約を行う。

苫小牧市地域包括支援センター 令和4年度事業報告及び令和5年度事業計画

東地域包括支援センター

【重点課題】		【重点目標】	
<p>個別相談が増加し、多様化・複雑化する課題の解決には時間を要している。また、包括職員のスキルや業務過多の問題もあり、対応が長期化するケースも増えてきている。認知症については、地域の理解がまだまだ不足している現状がある。介護保険においては事業所の不足やケアマネジャーの数の不足も顕著で、必要サービスに繋がらずらい事も課題である。インフォーマルサービスも広がらず、生活のしづらさを抱えたまま、その対応に苦慮することが多い状況である。</p>		<p>○他職種や専門職以外の様々な方々との連携が必須となり、今まで以上の連携を意識して行う。具体的には手つなぎネットの定期開催・地域ケア会議の適宜の開催・その他カンファレンス等を実施していく。</p> <p>○地域と一緒にできる事を意識し、特に若い人たちへのアプローチを行い、地域の人材が活躍できる環境を整えるようにする。</p> <p>○早めの相談に繋がるよう、地域活動を継続して行う。</p>	
項目	実施報告	課題整理	事業計画(具体的に取り組むこと)
業務推進体制への運	<ul style="list-style-type: none"> ・包括業務の不明瞭さ、組織体制の問題、過大な業務量に加え、職員が入れ替わった事での問題など東包括に留まらない包括全体の問題が顕著にみられている。三職種協働での仕事については意識付けがされており、センター内で連携して業務にあたっているが、職員の休職や入れ替わりによる不都合が業務に大きく影響している。職員一人一人の負担が年々増えている事も否めず、余裕をもった仕事には程遠い現状があった。職員会議・カンファレンス・地域ケア会議を通じて職員や関係機関との連携を意識してきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の研修体制や業務内容の見直しが必要である。やりがいを持って包括業務に向き合えるよう、コミュニケーションをとりながら、負荷がかかり過ぎない仕事を意識していけるようにしたい。 ・包括内の会議や打ち合わせで、一人一人が抱えている問題を相談できる体制が必要。 ・予防プランの増加に伴い、総合相談に充てる時間が限られてきている。他業務への影響も大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修機会の確保と新人職員への丁寧な指導。 ・包括内のカンファレンスや会議を有効に活用する。(毎朝の打ち合わせの継続・月1回の職員会議の他、困難ケースカンファレンスを実施) ・予防プランの居宅への委託を積極的に行う。
基盤構築	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議を積み重ねながら、地域のネットワークづくりに力を入れてきた。民生委員・町内会・介護事業所・医療機関その他関係機関とのより良い連携を意識し、障がい分野の事業所とのつながりも持つようにした。 ・地域の方々の集まれる場所として、包括隣接の【ぶらす】を開放し、認知症だけに特化しないサロンやシルリハ体操の会場などとして活用できるようにしている他、会議や研修の場としての機能を持たせながら有効活用している。 	<p>【強み】(特に評価の高い点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域とのネットワークづくりは意識して行っている。 ・医療機関(医師)からの相談もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状のネットワークがより強固なものになるよう、多職種での研修を定期で開催する。(手つなぎネット/年4回) ・地域ケア会議は必要に応じて積極的に開催する。(個別の他、圏域会議は1回以上開催予定) ・サロンを開催しながら、【ぶらす】を更に多様な集まれる場所として活用していけるようにする。(毎月第3木曜日/日時の変更あり)
		<p>【弱み】(改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い世代とのネットワークが必要。 ・認知症の正しい理解に繋がらない。 	
総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> ・長年【断らない支援】を心がけてきた。65歳以上にかかわらず支援している。困難なケースにおいては、積極的に地域ケア会議を開催し、各機関との連携によって本人支援につないできた。 ・虐待対応については、包括自身の対応能力に課題があると共に、市との連携についても同様に課題を感じている。 	<p>【強み】(特に評価の高い点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携がスムーズであり、地域の方とのネットワークも年々強固になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合相談においては、今まで同様【どのような相談でも受ける】姿勢を継続する。 ・虐待対応や権利擁護については、研修や自身のスキルアップの機会を積極的に持ち、適切な対応ができるようにすると共に、市との連携がスムーズに行えるように報告や相談を適切に実施する。
		<p>【弱み】(改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虐待対応については、スキルが足りないと感じている。 	
継続的支援	<ul style="list-style-type: none"> ・【手つなぎネット】を通じてケアマネジャー・民生委員のほか、障がいの分野の専門職ともつながる事ができた。総合相談同様に地域ケア会議を活用しケアマネ支援にも繋げる事ができている。 	<p>【強み】(特に評価の高い点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議を有効に活用できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、年間の予定に組み込むことで、新しい民生委員も参加しやすいようにしていく。(年4回予定) ・法人の障がい支援の事業所とも連携していく。(研修や事例検討を年2回程度)
		<p>【弱み】(改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい分野とのつながりも今後はさらに必要である。 	
認知症推進策の	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の方も認知症ではない方も集まれるカフェを定期で開催している。認知症当事者の方も役割を担いながら集まれる場所としての活用ができた。男性介護者の集いのほか、女性の介護者の方の集まりも開催し、介護者を支える場も作ってきた。認知症初期集中支援チームから地域ケア会議に繋ぎながら支援を行える体制を作る事が出来ている。反面、認知症の方の支援に迷う事もあり、認知症の方へのアプローチのスキルの足りなさを感じる事も多々あった。 	<p>【強み】(特に評価の高い点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議を有効に活用し、初期集中支援チームへの繋がりがスムーズである。 ・介護者の方を支える場を継続して運営している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・搜索模擬訓練を開催し、町内会への認知症の正しい理解が進むアプローチとしたい。(沼ノ端中央で開催) ・認知症初期集中支援チームの有効活用。(年6件予定) ・認知症の支援について、相談できる場を持つ。(カフェの有効活用/年12回) ・男性介護者の集いを定期で開催。(年6回) ・職員自身が認知症について正しく理解し、多様な対応方法が見出せるよう自己研鑽する。
		<p>【弱み】(改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人への支援に迷うことが多くあるが、相談する場が不足した。 ・地域の認知症の正しい理解が足りない。 	
在宅連携推進	<ul style="list-style-type: none"> ・医師から直接相談ができる関係となってきている他、薬剤師との連携がスムーズになり服薬についての相談や支援がしやすくなっている。 ・訪問看護や訪問診療の利用について、地域的に事業所を見つける事が難しいほか、訪問診療のハードルはまだまだ高い。 	<p>【強み】(特に評価の高い点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師からの相談がある事、薬局との連携ができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後もお互いの機能を十分に生かしながら連携を行っていけるようにする。 ・圏域の医療機関に予防教室などのポスター掲示を依頼。
		<p>【弱み】(改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問診療や訪問看護の利用が難しい。資源として乏しい。 	
体制生活整備	<ul style="list-style-type: none"> ・勇払の移送サービスや灯油ボランティアが活動できている事で地域の安心につながっている。今後は、植苗地区での課題解決も必要である。 	<p>【強み】(特に評価の高い点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会の事業があることで、通院の問題や灯油の運搬の問題が解決された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会や企業などとの連携を行う。 ・地域の課題について検討できる機会が必要。
		<p>【弱み】(改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・灯油の事業については自宅内での支援に課題が残るほか、他の地区での通院の問題は解決が難しい。 	

予 一 防 般 事 介 業 護	<ul style="list-style-type: none"> ・勇払と植苗地区の参加者が減っている。必要な方へのアプローチが大切と考えている。 ・シルリハの体操教室が定期で開催される事になり、住民主体の教室として今後、地域に定着させていきたい。 ・沼ノ端北教室を長年実施しているが、住民主体とすることのハードルの高さがある。 	【強み】 (特に評価の高い点) <ul style="list-style-type: none"> ・沼ノ端北教室を運営している。地域へチラシを媒体として周知できる手段がある。 ・シルリハ体操教室が定期開催されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関を活用し、教室の周知を今年度も図っていく。 ・勇払のサロンへは参加する方が多くいる状況があり社会福祉協議会と情報交換を行いながら必要な方を教室に誘う働きかけを行う。 ・地域住民向けのチラシの発行を継続する。(月1回) ・法人開催のはつらつ教室と協働し、地域の通いの場として定着させる。
		【弱み】 (改善が求められる点) <ul style="list-style-type: none"> ・教室への参加者が少ない地域がある。 ・北教室の自主化が難しい。 	

令和4年度 認知症初期集中支援チーム 活動報告

1 認知症初期集中支援チーム設置状況

(1) チーム員数

	西	しらかば	山手	南	中央	明野	東	合計
チーム員数	6	6	7	5	5	6	6	41

(2) チーム員会議参加者（各チーム員入れ替え制）

	参加者
チーム員	担当ケースのチーム員
サポート医	北海道メンタルケアセンター 医師 矢上 勝義
アドバイザー	認知症疾患医療センター センター長 頼実 奈美 道央佐藤病院 作業療法士 大谷 喜範 植苗病院 作業療法士 松浦 千果子
認知症地域支援推進員	苫小牧市南地域包括支援センター 桃井 直樹

2 チーム員会議開催状況

(1) 会議開催数および対象実人数

- ア 第2火曜日・第4月曜日：計 23回
- イ 実人数 44名 延人数 65名

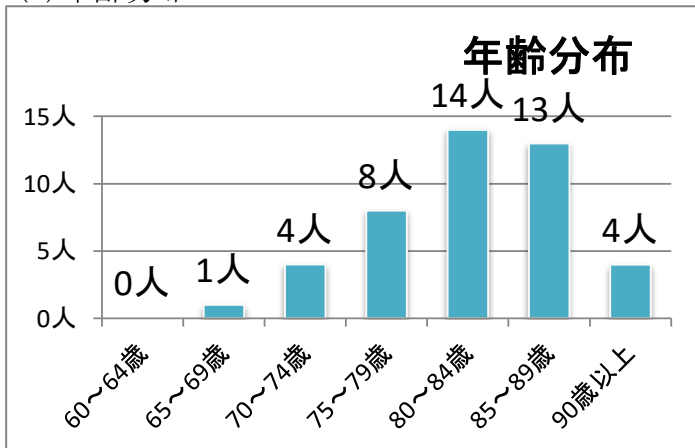
(2) チーム員別会議実施内容

会議内容	西	しらかば	山手	南	中央	明野	東	合計
初回会議	1	1	5	6	6	6	3	28
中間会議	0	0	0	0	0	0	0	0
終結会議	0 (1)	0 (0)	3 (5)	6 (2)	6 (3)	4 (3)	2 (2)	37
合計	2	1	13	14	15	13	7	65

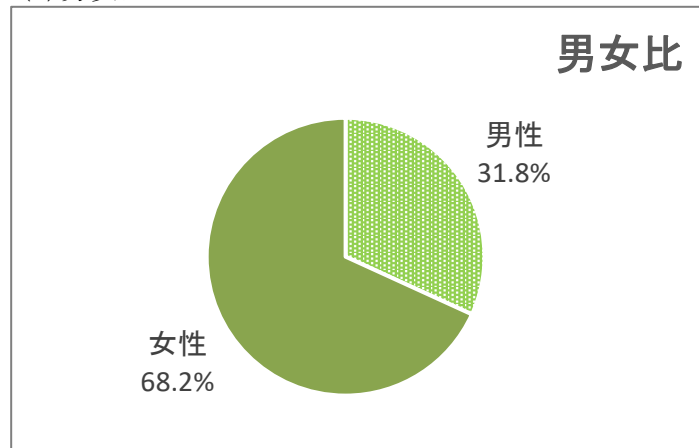
※（ ）内は、R3年度初回実施分

3 支援者内訳（令和4年度実施分 実人数44名）

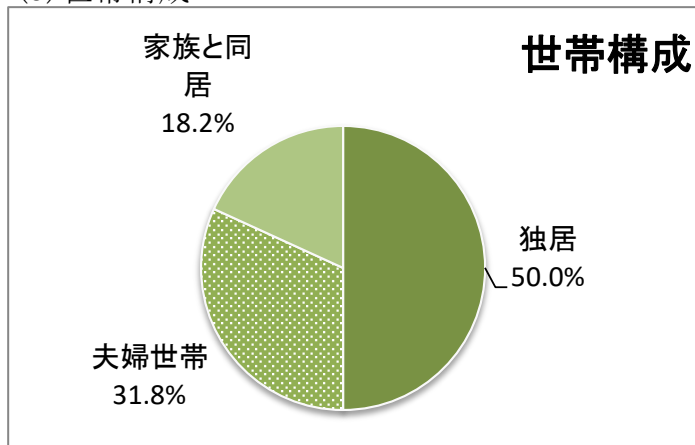
(1) 年齢分布



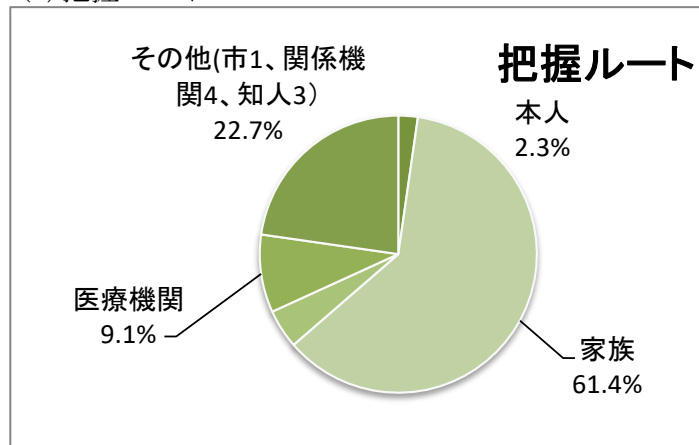
(2) 男女比



(3) 世帯構成



(4) 把握ルート



4. 支援終結者支援結果（令和4年度終結実施分 実人数37名）

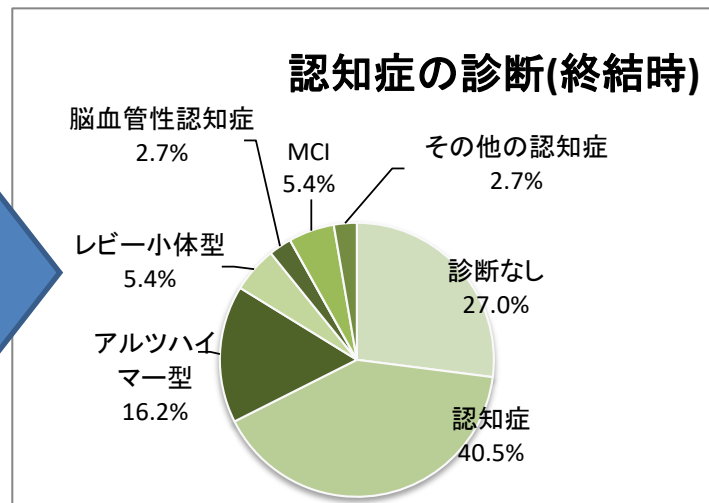
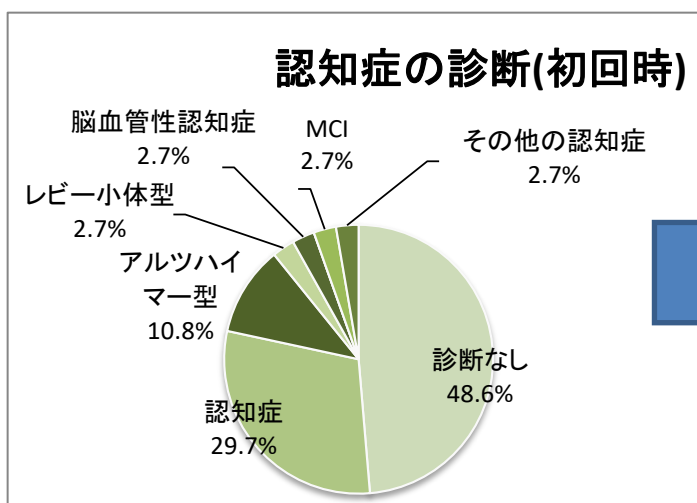
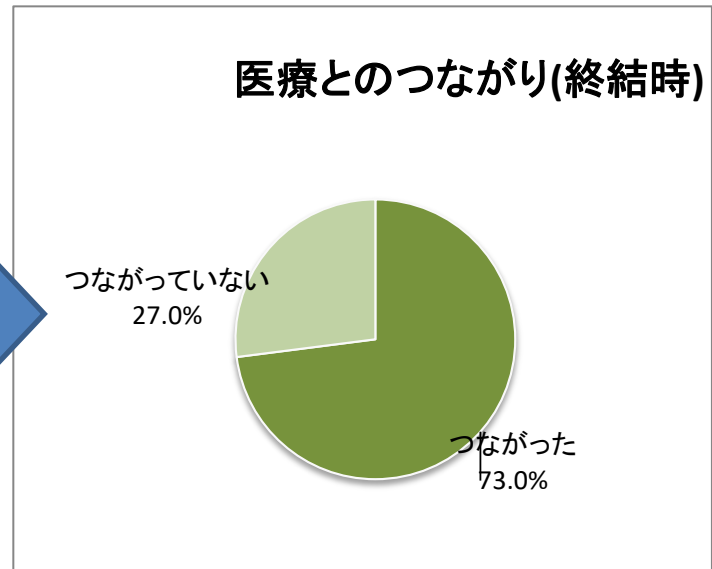
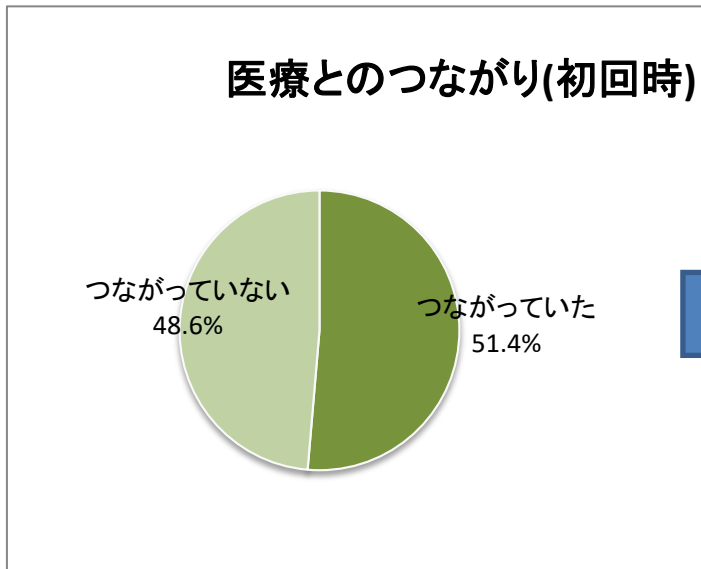
(1) 認知症診断状況

<初回時>

医療につながっていたケース …… 19件 (51.4%)

<終結時>

医療につながったケース …… 27件 (73.0%)



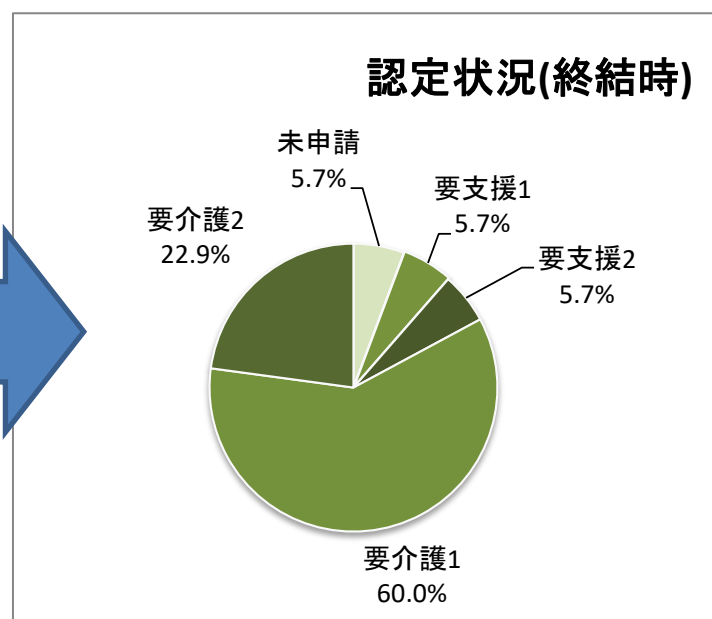
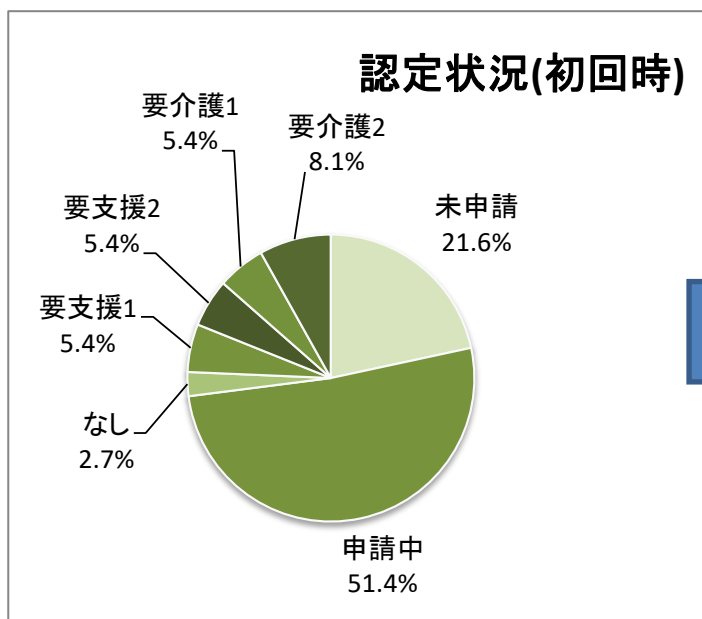
(2) 介護認定状況

<初回時>

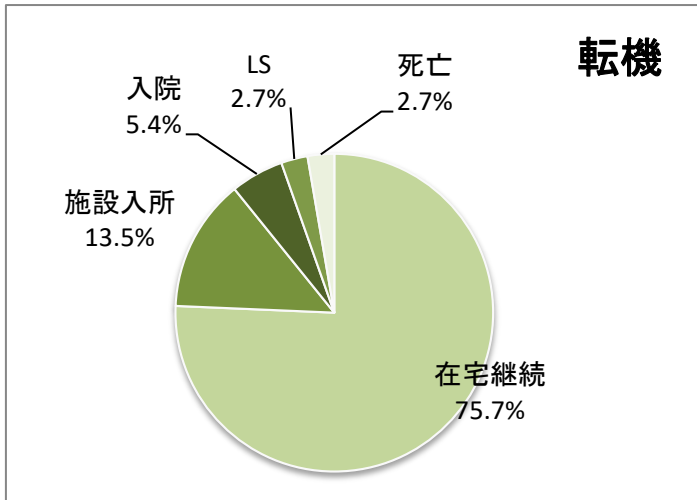
介護サービスにつながっていたケース …… 9件 (24.3%)

<終結時>

介護サービスにつながったケース …… 35件 (94.6%)



(3) 転機



評価

認知症初期集中支援チームの目的は、早期診断・早期対応に向けた支援を行うことであるため、ケースを把握してから、できるだけ早く受診へつなげたり、本人の困りごとに応じた支援を行っていくことが必要である。

令和4年度のチーム員は、把握から初動日までの日数が12.0日。全国平均は15.4日（初期集中支援チーム員研修資料より）であり、把握してから初動日数は平均より短く、早期に対応できている。

支援初回時から終結時を比較すると、医療を受けているケースは 51.3%から73.0%に増加した。また、介護保険認定者が24.3%から94.3%に増加。チーム員が介入したことで、医療や介護につながり、認知症初期集中支援で介入した成果と考える。

認知症初期集中支援は早期診断・早期対応につなげることを目的としているが、診断を受けることだけが支援ではない。チーム員会議を行い、本人や家族の意向を組み入れた対応を検討し、本人が望む生活を送るための支援となることが重要である。令和4年度は、有効的な会議となるようチーム員会議の方法について検討した。今後も認知症の人やその家族にとって、より良い支援を行っていくことができるよう、事業を実施していきたいと考える。

令和5年度 認知症初期集中支援チーム 活動計画

1 認知症初期集中支援チーム設置状況

(1) チーム員数

	西	しらかば	山手	南	中央	明野	東	合計
チーム員数	6	5	7	5	5	6	5	39

2 チーム員会議開催予定

(1) 会議開催予定日

毎月 第2・第4火曜日 計 24回予定

(2) 開催方法

ZOOM 会議システムを使用したオンライン会議

令和4年度西部地区認知症地域支援推進員活動報告及び令和5年度活動計画

【令和4年度活動報告】

- ・コロナ禍の影響もややある状態だったが、認知症サポーター養成講座や認知症に関する講話など地域住民へ対しての認知症の普及啓発、本人支援の活動を継続的に実施することができた。
- ・令和3年度に見合わせた認知症を支える人材づくりである「認知症フレンドリーカレッジ」は令和4年度は再開できた。認知症見守りたいに案内し講話等を行ったが、令和5年度に向けて、開催時期や内容について、見直していく必要があると考える。
- ・その他の活動についても、定期的に市と共有を図りながら、地域づくりに繋げる事を意識し活動を行った。

【R5年度西部地区の活動方針】

- ・推進員の変更、兼務2名体制を維持。推進員担当各包括との連携を強化、地域支援体制の構築の為に、各包括の状況に合わせた支援体制の構築と普及啓発の継続、人材づくりや見守り体制の構築を進めていく。又、認知症者本人の声を聴き本人参加型の個別支援を通じた地域づくり活動を行う事とする。

【令和5年度の重点的な取り組み内容】

① 認知症の普及啓発の推進と人材発掘、地域づくりへの取り組み

- ・各包括と協力し中学校などで認知サポーター養成講座を実施する。地域住民への普及啓発は認知症ケアパスの活用を積極的に行い、認知症の正しい理解に繋げる。
- ・認知症フレンドリーカレッジの実施と見守りたい養成講座などの取り組みを行い、前年度までの積み重ねの中で見えてきた課題に対しアプローチしていく。
- ・企業向けに認知症の見守り体制が深まることを目的とした普及啓発のパンフレット作製を実施。
- ・認知症見守りたい活動の場でもあり認知症者本人支援の活動、認知症フレンドリーファーム活動の継続と、その活動を通じ地域づくりに繋げていく。

② 認知症関係各会議、地域ケア会議参加、認知症カフェなどの取り組みへの参加

- ・認知症会議関係や担当圏域内の個別地域ケア会議、圏域ケア会議に参加し地域における認知症に関する課題把握の機会とする。
- ・把握した課題に対し市と定期的に意見交換、共有する場を設け今後の取り組みに繋げていく。

③ 相談支援・支援体制の構築

- ・認知症対応力向上の為に、地域のケアマネジャーへの認知症カフェへの情報提供、認知症初期集中支援チーム員対応事例の共有なども、主任ケアマネジャーと連携し圏域地域のケアマネジャーで情報提供をしていく。
- ・若年性認知症の普及啓発、理解の促進のため、東胆振ひまわり会との連携強化を行い、講演会・交流会の共同実施に向け調整を行なう。